

虹芝寮との70年

はじめに

虹芝寮が建設されて70年が経過し、私も89才を過ぎようとしている。開寮式と命名式の写真撮影を依頼され、親父の手札のフィルムパック使用の重い(2kg±)レフレックスを担ぎ揚げて撮影してた。

当時は、住んでいた中野にも吉祥寺にも現像・焼き付けをしてくれる写真やが無かったので、現像は自分で、プリントは太陽光による手焼きで行ったので、手間がかかり、出席の諸兄にも配らずアルバムにはったままにしておいた。戦前は山に写真機を携行する人は極く限られていて、その人達が私に贈ってくれた写真も、同じアルバムに収められていた。戦災で多くのものを失ったが山の道具とこのアルバムは親父が疎開してくれたお陰で、今も手元にある。

学窓を去ってから下記のような勤務の為に東京を離れ、山登りは勿論虹芝寮を訪れる機会を失った時期もある。

1938/06 - 12	三菱鉱業kk、宮城県細倉鉱山勤務
1939/01 -	兵役
1941/12 -	三菱鉱業kk、宮城県細倉鉱山勤務
1951/12 -	”、兵庫県明延鉱山勤務
1957/04 -	”、東京本社勤務
1961/06 -	”、Vancouver駐在
1963/10 -	”、東京本社；金属鉱業事業団；三菱商事kk勤務
1974/09 - 1977/10	国連ESCAP (Bangkok在)勤務

いよいよ仕事を離れて再び山にゆく閑が出来たときには齢63才をすぎ、山仲間からは山から離れて、一人で行動するには体力的に無理があり、結局は現役諸君や若い踏高会会員諸兄たちの世話になりながら山に入ることとなった。行きたい山は沢山あてもこのようなチャンスは少なく、行き着く所は虹芝寮、これも寮祭や寮整備、GWに同行させて貰うのが私の主な山行きとなった。

このようにして、虹芝寮が出来てから70年祭迄の入寮と、宝川から笠岳・清水峠を越えて寮の建設地に来たとき、建設途上の(丁度屋根と二階の床が張られていた)寮に建設作業監督中の渡辺、高木両君と泊まった日を加えると寮滞在日数の合計は296日となる(表参照、虹芝寮の四季、p5)。

開寮式から此の296日の間に撮った写真、同行の方達から贈られた写真は、このようなアルバム3冊に纏められてある。此のアルバムは私の死後は家族にとっては無用の長物で何れは捨てられる運命にあるであろうことを考えると、いささか淋しい。そこでパソコンを購入した機会にこれらの写真から代表的なものを選んでコピーし、アルバムにまとめる事を考えついた。しかし、上述のように寮の生活が大分で山行は殆どなく、数次のGWの芝倉沢位であるので、アルバムの構成を下記のごとくした：

虹芝寮建設とその後の変遷
寮生活あれこれ
虹芝寮の四季
土合から蓬峠
雪崩

2003/10

三枝守維
(旧高10年、1935、卒)



虹芝寮との70年、I

虹芝寮建設とその後の変遷

虹芝寮生活あれこれ

虹芝寮建設とその後の変遷

虹芝寮建設の経緯と経過

1930/9に踏高会が設立され、これと略同時に旅行部部員と踏高会会員とによる山の本を読む研究会（名簿：Seikei Alpine Reading Society）が発足し、10/4の第一回を皮切りに部員の家を巡回して開始された。主としてMummery, Tyndall, Lunnの著書の輪読で12月までに7回開かれた。この会合の折我々の山小屋が欲しい、之れを建てようとうことが議論され、翌年1931の研究会は小屋建設の準備会となった。小屋を何処に建てるかについては次のことが重視された：

- 1) 四季を通じ、スキー、或いは岩登りの拠地たり得ること、
- 2) 東京より土曜・日曜に利用可能な近距離であること、
- 3) なるべく未開の山岳地であると、
- 4) 初心者と雖も容易に到達し得ること、
- 5) 付近に山小屋が無く、之れを必要とすること

此等らに就いては第一回準備会で早くも谷川岳周辺に意見が一致した。

小生が谷川岳一帯に興味を覚えたのは尋常科（成蹊は7年制高校で尋常科—中学相当—4年制；高等科3年制）3年の時、1929、で軍事教練の夜間演習の慰労休暇、神嘗祭、日曜と珍しい3連休を利用して、父と谷川岳を目指した。11/22終列車で水上に着いたら雪で水上で一泊。翌22日も朝から雪で、谷川温泉迄行き様子を見ることとした。23日は快晴であったが温泉付近に60cm余の積雪があり、ラッセル要員を一人雇い7:30出発。登るにつれて雪は深くなり、天神峠では1mを越し、予定時間を過ぎて到着は12:30。登頂を諦めて引き返した。ここから見た真っ白な谷川岳、それらにつづく利根の山々の印象は強烈であった。

小屋の敷地選定の条件として次の項目を検討した：

- 1) 恒久的水源に近く小屋内に導き得ること、及び燃料を付近から容易に求め得ること、
- 2) 絶対に雪崩の危険なきこと、
- 3) 成るべく眺望の良いこと、
- 4) ルンペン等に荒らされる憂いから主要道路から見えないこと、
- 5) 近い所にスキー練習所を発見し得ること。

実地調査は1931/5 - 1932/6の間に13回行なわれた。一の倉の草地（現在カクがあるところで、当時は広い草地であった）も候補地であったが、上記の1)、4)、5)を満たしておらず、芝倉沢の右岸テレスに優る地を発見できなかった。このテレスで現在の場所を決めたのは水が小屋内に引きやすかったことで、虹芝寮建設後に出来た以前のJRの小屋を襲った雪崩の通路を考慮したのではない。

小屋の設計に当たっては、東北帝大の宮城蔵王のヒュッテの設計者である小川登喜男氏の意見、我々がよく利用した五色温泉宗川旅館所有の青木小屋、Kruckの"Die Klubhütten der Sektion Uto"中の設計図などを参考にして、まず試案を作り、最終設計は部員渡辺兵力の知人であった建築家の堀越三郎氏にお願いした（堀越三郎氏は1937に二高の宮城蔵王の青木小屋—現在東北大所属—を設計された）。

1932/6/7に学校当局より地均し等の基礎工事を夏の学校（成蹊では高校1年生は登山、水泳及び作業—主に校庭内の草取り、清掃等—の何れかに参加する決まりがあった）の作業として行なうことを条件として許可がおりた。作業は高校生と旅行部部員を含む21名を以て構成された夏の学校山岳班第一班によって7/20-25の間に行なわれた。芝倉沢と湯檜曾川の出合いにテントを張り、小屋敷地内の伐採・整地、基礎玉石の採集（大部分は芝倉沢より運搬）、芝倉沢よりテレスに登る崖に道の開削、建築現場迄の資材運搬の為の既存道路の改修と新設（現在使用の道；当時の道はテレスに登らず湯檜曾川に沿って芝倉沢に通じていた。建設後小屋がルンペン等に荒らされないうように、この道を封鎖したが、後にJRの小屋建設で復活）。この作業終了と共に建築資材の運搬が行なわれ、8/10より建築工事が開始された。部員渡辺兵力、高木正孝は現地監督として8/29まで滞在し、その後は9/1迄踏高会会員上田良二、中屋健一が引き継いだ。工事は9/13に完了し、受け渡しが行なわれた。

命名式 と 開寮式



凝 念



国旗掲揚

昭和7年9月15日芝倉沢の現地において10時—11時の間に命名式と開寮式が下記のごとく行われた。

式次第	凝 念	
	心 力 歌	
	命 名 式	(浅野校長より高木、渡辺、長島委員これを受く)
	国 旗 授 与	(渡辺、長島受領)
	国 旗 掲 揚	
	君が代斉唱	
	式 辞	浅野校長
	祝 辞	来賓 代表 五十嵐 修 (営林署)
		地元 代表 阿部 一美 (本家旅館主)
		職員 代表 南条 文英
		踏高会代表 三野 明彦
		在校生代表 高木 正孝 (旅行部委員長)
	万歳 三唱	堤理事主唱
	校歌 斉唱	
	会 食	土合山の家主人中島多己恵の好意により山の家から ライスカレーを運び上げた。

会食後芳名録に参加者各人が署名をおこなった。

スイスの山小屋では滞在者がいる時は国旗を掲げる習慣があるとゆうので、これにならった。成蹊では浅野校長のお考え、国旗即ち校旗で、授業のある日は高校三年生が交代で本館の屋上に国旗を掲揚していた。



阿部一美来賓



三野踏高会委員

この演題は炊事場の流しを逆にしたもの。
4本の杭で支えてある。



高木旅行部委員長

あるハプニング

来賓以外の参列者は9月14日昼までに入寮。小屋を持つ事は大変な喜びで、前夜祭のご馳走にと学校の炊事場から肉一貫目を買って入寮した。ところが包丁が脂で切れなくなり、面倒臭いので大きな角切りのまま煮て夕食に供した。夕食の出来かかったころから雷鳴を伴った激しい夕立となった。

谷川岳に登ってから入寮予定の石渡、中村、萩尾の3人が夕食の時間になっても来ない、11時迄待ったが来ないので中屋、丹治踏高会会員が湯檜曾に宿泊中の南条部長等に報告と、今後の処置打ち合せのため急遽下山し、小屋では皆不安な一夜を明かした。

一行は山頂付近で、周縁の岩が落雷によって火花を散らすほどの激しい夕立に遭遇したが、適切な処置によって、15日早朝無事下山、入寮し、一同ほっとしたとゆうハプニングがあった。

15日の朝、浅野校長（草鞋ばき）以下小雨の中を寮に到着。式の頃には雨も上がり、式は滞りなく終了した。

この一件は上海事変で勇名を轟かせた肉弾三勇士に因んで三勇士事件としてしばらくは話題となった。



記念撮影

参加者(38名)

- 学園関係 堤 長述理事、浅野孝之校長、大峽秀榮教頭、南条文英旅行部部长、手塚宏寿生徒課長、尾崎三郎教授
- 来賓 五十嵐 修(営林署)、阿部一美(本家主人)、園部良夫(地元)、紺野藤作(戸倉組、現場主任)、中島多己恵(山の家主人)
- 踏高会 中屋、佐川、丹治、三野、多賀、田辺
- 旅行部 高木、上田(信)、神谷、中村(剛)、石渡、渡辺(千)、渡辺(兵)、三枝、立見、長島、西村、橋本(鉄)、米山、今井、内藤
- 在校生 後藤一雄、小布施史郎、萩尾 篤、村上 宏、馬場一郎



学園関係者
堤理事、浅野校長、手塚、大峽、南条、尾崎先生



前列：上田(信)、中屋、高木、丹治
後列：三枝、三野、南条部長、渡辺(兵)、長島、佐川

(以上撮影、三枝。原板は手札)

新島縣湯谷曾其念海
 成蹊学園山本家
 虹芝寮
 昭和七年九月十五日 浅野

芳名録表紙のコピー、浅野校長書

虹芝寮には芳名録が備えられ、之れには最初に寮を訪れた時のみ署名することとなっていた。入寮の記録はすべて寮日誌に書くことにしていた。したがって命名式に出席した方々をはじめとして、来寮者は各ページの下部に縦書きで順次署名する。芳名録は紙は和紙が使われた立派なもので、署名用の筆、墨、硯が備え付けられていた。署名の中には大槻文平氏等著名の方の署名も見られたが、何時の間にか宿泊者名簿の代わりとなり、乱雑なものとなってしまう。これは資料整理の為に寮日誌が部室に下がることがあったためかも知れず、現在のように宿泊者名簿を別に置けば良かったのかもしれない。

(この芳名録は成蹊学園の資料館に保管されている)

提
長述

海
平
冬
之

大
崎
秀
榮
五
十
七
號
修

阿部一美

園部良雄

紺野藤作

手塚宏壽

尾崎三郎

南條文英

中屋健次

佐川心雄

2P

3P

丹治道生

三野明彦

田原秀和

高木七春

上田信三

神谷延彦

中村剛

渡辺千春

4P

5P

了均一好

渡辺忠方

三枝守羅

長嶋辰郎

村上宏

米山幸男

立見辰雄

西村永三

6P

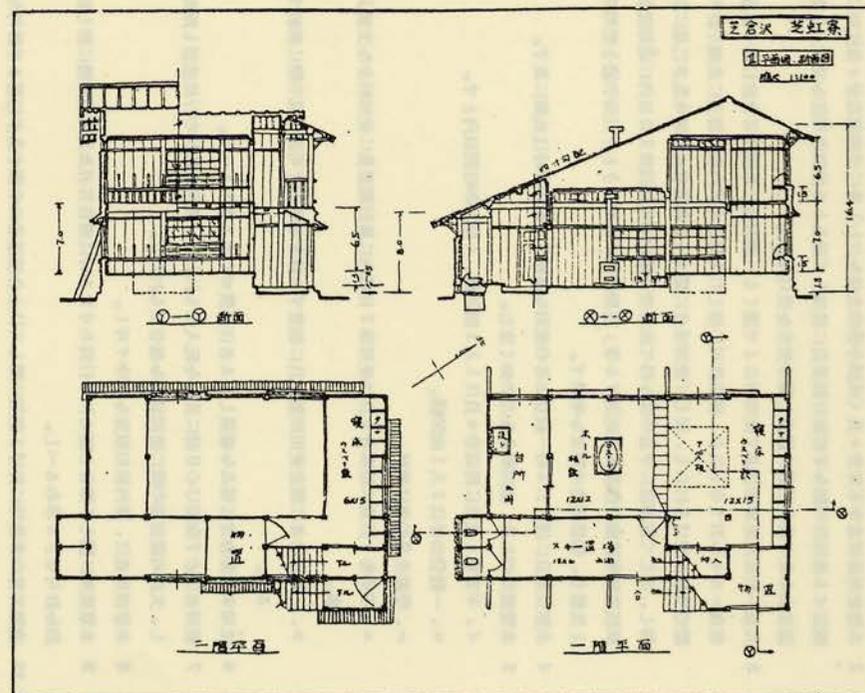
7P



虹芝寮 (建築写真)

当初の建築

1. 一階の物置は冬の為の薪置場。現在以外側半分が燃料、薪割り斧、草刈り鎌などが格納され、内側半分は寝具入れとして使用。
2. ストープはこの図と違い、これと直角で焚口は台所の方にあった。設計は渡辺兵力の設計。縦4尺x幅3尺x高さ3尺でこのようなストープを造る所が無く、中屋氏が小樽に発注し、煙突は水上に発注。
3. 1、2階の北側にあるボックスは個人一人一人の荷物置場。これは荷物の整理には都合良かった。
4. 1階の寢室の上げ板は家庭の台所にあるような一種の格納庫。ここで山葡萄の液を作った。
5. 台所の流し(式典の時の演台)はじかに床に置かれ、これに3”(2”)のパイプから水が注がれ、流水で食器を洗うことが出来た。



建設費用次の如し。

建設費(戸倉組へ)	1443.89
大工への祝儀	15.00
追加工事費	129.43
保険金額(1500圓)	9.75
腰掛及食器棚製作代	18.10
土工具運搬費	1.31
ストープ設備代	36.85
煙突設備代	53.20
合計	1707.53

WCは列車式であった。やや前後が狭かったので列車の把手が取り付けられた
(中屋啓子、父と子の山、p 153、中央公論社、s32)



建設当時はまわりの樹木は、現在と比べると小さく、室内は明るく、台所や一階の寢室の窓からはカタズミ岩や武能岳がよく見えた。
現在は小屋の西北角の木が大きくなり、一部の枝が屋根に被さっている。

照明は石油ランプでホヤの掃除と補給が大変で、沼田で購入し補給した。
Colemanの圧力かけるランプは存在、明るくて重宝したが燃料は石油でアルコールで予熱の必要があり、芯は非常に脆かったし、一晩の間にたびたび圧力かける必要があった。

住み心地と感想

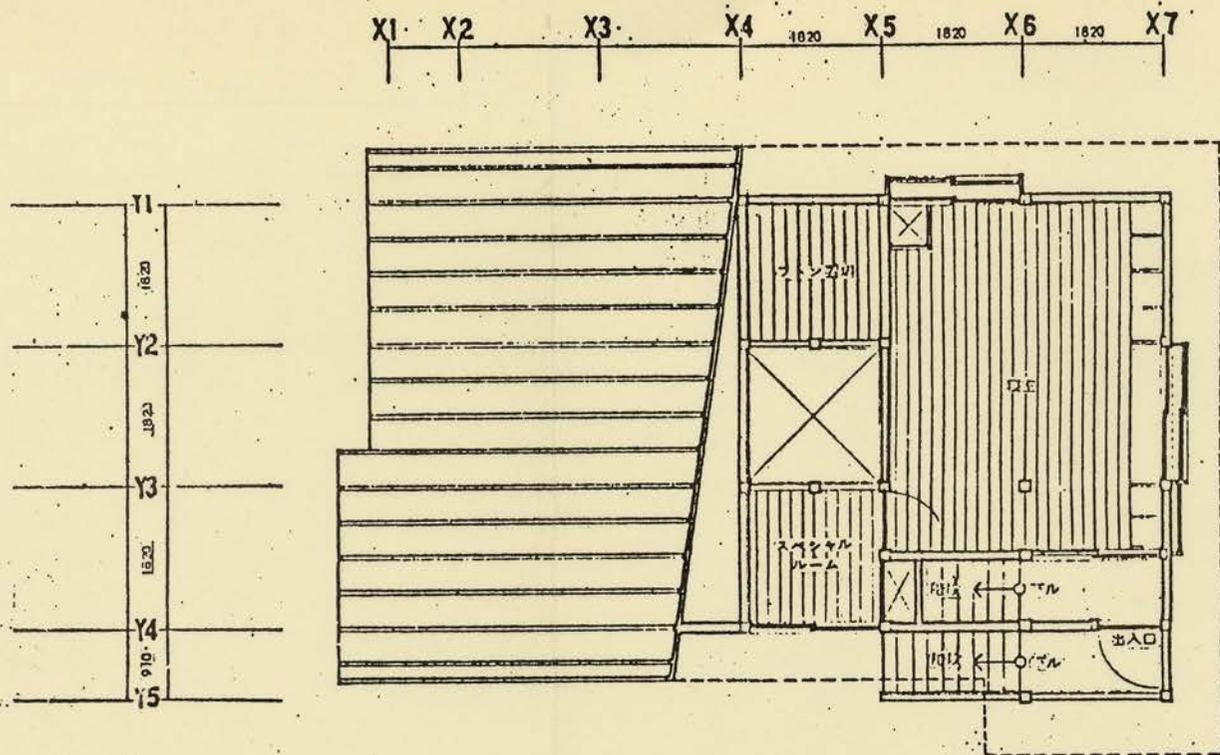
我々が成蹊に在席した頃は多数の人が泊まっても、10人を越える事は殆ど無く、小屋生活は快適であったが、将来宿泊者の増加、備品の増加等を考えると多少の不満と希望が残された：

1. 物置が足りない—ホール天井裏の利用
2. 二階の西側に窓(カタズミ岩など眺められない)
3. 二階を拡張し寢室を全部これにあてる
4. 小人数の時はストーブの熱を逃がさぬよう、二階にカーテンを付ける
(これは現在も考慮の要あり)

(設計者の堀越三郎氏が昭和12年に設計された第二高等学校—現在東北大学—の清溪小屋では1、3の要望は満たされている。また二階への梯子は同じように取り付けられている)



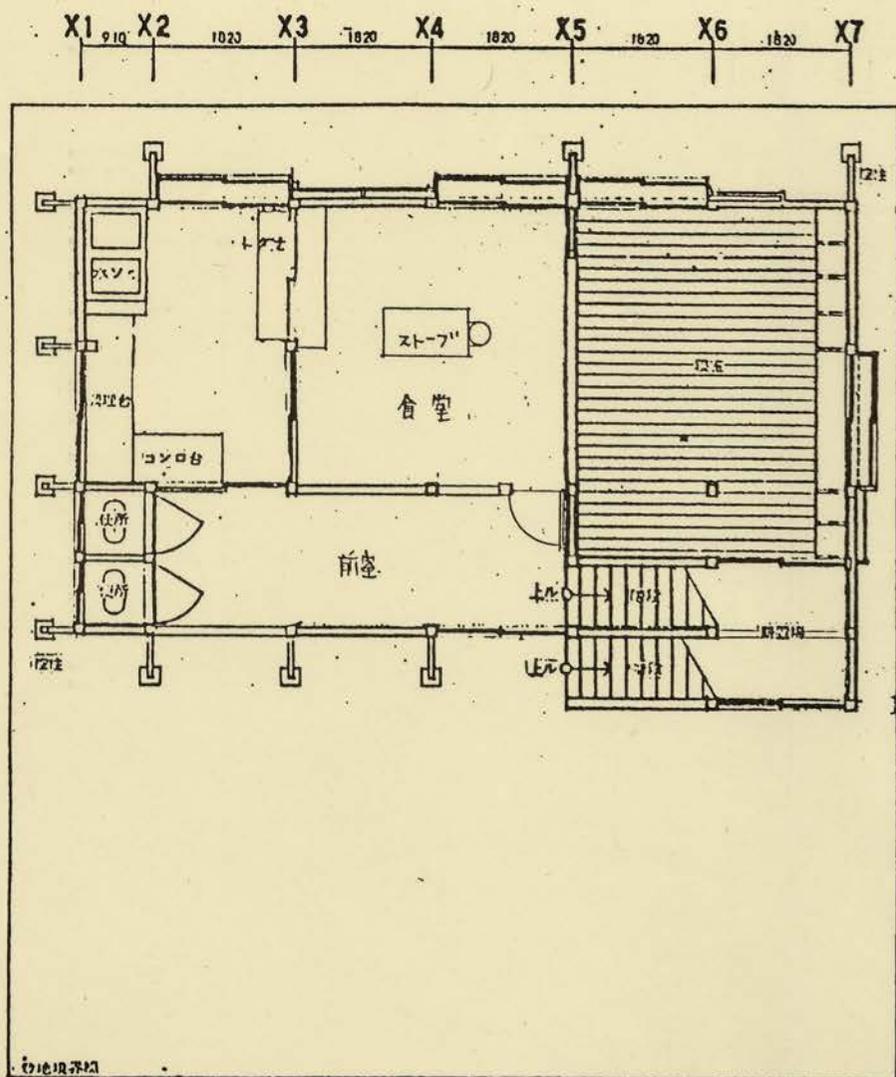
毛布の下に上げ板があった。窓際の仕切りが荷物置場。



1階 56.20[㎡]
 2階 29.49[㎡]
 合計 85.69 (25.9^坪)

2階平面図

1940 の 改築



1階平面図
 配設図

昭和15年の改築

改築の経緯は:

1. 旅行部部員、踏高会会員の利用者が減少し、学校の施設として認識してもらうために部員以外の一般生徒の利用者を増やす、
2. それには居住性をよくする必要があり、ストーブのある階下のホールを広くし、
3. 2階を拡張して寝室とし、西側と物置(通称スペシャルルーム)に採光の窓を作る、

ことで、この内、2、3、については既に考慮されていた。

実際には2は従来のままであったが、2階の拡張、台所の拡張が行われた。

この機会に、ちかじか統制が強化されて鉄板の入手が困難になるとの兼松氏の助言で8年間使用した渡辺兵力氏設計の初代ストーブを新しいものと取り替えた(40/8/23)

寮日誌抜粋（開寮式より終戦）

- 1932/10/29-31 高木、渡辺、米山：火鉢、炭 運搬。30：三枝、立見、長島、橋本、佐川（踏高会）入寮、薪運び
12/4, 5 中屋、清田、田口、小川登喜男（東大）入寮。
ストーブ北海道から到着
- 12/17-
1933/ 1/ 7 合宿（参加者、旅行部：米山、立見、渡辺、三枝、長島中村、石渡、渡辺、南条先生；踏高会：中屋、上田丹治、井上、桂；その他：串田孫一、渡辺、千江、三江、中屋、小屋番、篠原富三郎）
19：カタスミ集中登攀。26：渡辺以下7名武能尾根より武能岳。2：中屋再入寮、煙突運搬、取り付け。
3/13, 14 中屋他3入寮。14：寮の南西急斜面に表層雪崩、テブリは小屋の西50m
3/17-4/3 春合宿（参加者、旅行部：渡辺、立見、高木、石渡、三枝、中村、今井、西村、長島、水谷、神谷、堀内、野村、黒石、村上、今村、後藤；踏高会：久野、上田、兼松、中屋他6；その他、中屋他4；篠原）
18：石渡他5、カタスミ沢を登る途中、親子熊がカタズミ岩下の斜面を横切るのを見る；渡辺、長島、立見、中屋より武能岳、茂倉岳を下る。
25：高木、渡辺、長島、一の倉本谷を登り一の倉岳；三枝、立見、中屋、マチガ沢。27：三枝のパーティーはカタズミ沢の二俣の下で左俣からの湿潤表層雪崩に会い、今村が腰まで埋まる。
4/ 2, 3 上田入寮、17:00、5°C、芝倉沢出会左岸底雪崩
5/ 5, 6 兼松、久野、入寮、7：赤倉沢一大倉一笠一大倉沢
5/17-20 塚本閣治他3名および米山、入夫3入寮
21 渡辺、長島、西黒沢一谷川岳一芝倉沢、即日帰京。
寮の表札を土台迄運ぶ
- 6/ 3, 4 西村、立見、芝倉沢SbⅢより武能岳
7/16-8/12 夏合宿。18：渡辺、立見、カタズミKⅣ-KⅡ。
23：夏の学校第一班、中屋、蓮崎一谷川岳。24-26：三枝、久野、立見、今村、宝川一笠岳一清水峠
25-26：渡辺、高木、一の倉滝沢Bルンゼ。
29：渡辺、高木、幽ノ沢左俣中央リンネ。8/5：三枝、長島、SbⅢ一武能岳。後線で夕立に会い武能沢増水で渡れず、白樺小屋に一泊。7：久野、渡辺、三國川より帰寮。
9/14, 15 一周年記念。9名参加
12/18-
1934/ 1/ 7 20:9:30気温-2°C、芝倉沢に雪崩、成蹊スロープにて約4分間土をまじえた雪煙で周囲が見えなくなる（発生場所記載なきも入り口の対岸?）。29：高木渡辺一の倉沢、後線で芝倉沢えの方向を誤り幽ノ沢を下り夜半帰寮。1/3成瀬、上田、久野、立見、西村、串田中屋の茂倉岳に登るべくカタズミ岩に向かうも、カタズミ岩下の斜面で立見板状雪崩に乗り150m滑落、一行引き返す。5：久野、三枝武能尾根より武能岳。
合宿参加者：成蹊20、踏高会12、他25
- 7/12より8/1まで連日雨模様の天気がつづいた
8/ 2 三枝、上田、大倉沢より笠岳
6 高木、渡辺、一の倉滝沢Aルンゼ一谷川岳。
三枝、久野、上田、一の倉一の沢一谷川岳
21-26 西村先生、渡辺、新庄、池田他3入寮、蝶の採集、芝倉沢、一の倉沢の残雪地形の観察
9/14-16 二周年。参加者、手塚、南条先生以下16
鉄塔工專の為道路が改造された
11/24, 25 立見入寮、寮付近積雪30cm。白樺小屋付近よりスキー可能
12/23-31 合宿。24：雪少なく芝倉沢より100mの間はスキー不可。土台のスキー講習会の一行が寮迄登ってきた。28-29：上田、久保田、川田内藤、七つ小屋一清水峠（峠の国鉄の小屋一泊）
1935/1/ 3 成瀬、上田、三枝、池田、清水峠一笠岳
26, 27 踏高会ピクニック（成瀬、上田、久野、山室、高木）
尾瀬合宿の為寮での合宿は中止
- 4/27-29 28：成瀬、久野、上田、立見より武能岳
9/11-14 渡辺、三枝、立見、高木入寮。13：高木、三枝、幽ノ沢右俣；渡辺、立見、幽ノ沢左俣中央俣
19, 20 今井、池田：国鉄小屋建設問題起こり、盗難防止のため食器等を残しその他の備品を山の家に移す
1936/ 1/ 1- 7 成瀬、川田、上田、後、三、今井入寮
3/15-17 竹内、高橋、池田入寮。馬鹿雪で階下入り口の扉、西側の窓ガラス破損。2階の窓から侵入者あり、米、石油、ガソリン等盗難
国鉄の小屋完成、番人常住。
7 武能沢出会いから大倉方面えの道が開かれた
27-31 生物研究会奥平他10名入寮。30：奥平山下上記新道より大倉に至り、山頂に“笠岳”の標柱を見付ける
9/13-15 4周年。参加者：南条先生、三枝他現役16名
12/30-
1937/ 1/ 7 入寮者：太田、山口、上田、三枝、池田、立見、池田、谷岡、井上、他3名
31：太田、山口、七つ小屋、武能沢に国鉄の小屋完成、七つ小屋にも小屋あり
3/27-4/2 入寮者：石渡、中村、渡辺、大石、和知、太田。30：武能小屋より野菜砂糖補給
前田、太田、巻機山から縦走して入寮
東大合宿開始
8/ 2
12/28
31-
1938/ 1/ 8 入寮者：成瀬、上田、後、三、渡辺、立見、三枝（以上踏高会）太田、井上、井村、松本、（現役）、篠原（小屋番）
3：東大生は2日武能岳にて越後側に滑落負傷の文理大生の救助。井上他現役は七つ小屋に向かう。6：天候回復せず、井上のパーティーは蓮

（春合宿は五色の青木小屋で行なう、雪多く雪崩を考慮して）

- 1943/ 4/24、25 奥住、鈴木、稲川、佐々木、藤村、山田入寮；橋本、久野、田辺、熊穴-谷川岳より；吉坂、竹中、渡辺、西黒沢-谷川岳より入寮
- 7/24-8/1 合宿。参加者：山田、久野、吉坂^{後、附}、石坂、稲川、渡辺、井上、竹井、中村、他に南条先生
西黒沢-蘆峠縦走(2回)、鉄砲尾根-笠岳、マチガ沢-谷川岳、S_{II}-m尾根より武能岳
- 8/11-23 入寮者：塚本、渡辺、稲川、山岸、橋本、田坂、中西、佐々木、他大久保捨蔵先生。
13：渡辺、稲川、マチガ沢-谷川岳
16：渡辺、稲川、山岸、一の倉3ルンセ、本谷登攀
18：橋本、田坂、沼田え買い出しと石油の交渉
- 9/24-26 藤野、増田、三矢、田坂、卒業兼社行会；”これから先いつ訪れ得るやもしれぬ我がHeimatに帰って来ました。”
- 10/15-17 石坂以下14名入寮。16：3班に別れ、マチガ沢-谷川岳；西黒沢-谷川岳；蘆峠-谷川岳
- 11/2-8 入寮者：杉本、石坂、大橋、田坂、稲川、三角他？
当時の豪遊な晩餐メニュー：
短鱈の薫製、干鰯、もたし(茸)バタ炒飯、もたし葱の味噌汁。酒(ビール、焼酎2.5合弱/人)。りんご。
宿泊費：山岳班、報國団員、50銭；踏高会、60銭
卒業生、70銭、その他、1円
- 12/1-3 踏高会関係出陣学徒はすべて海軍入団と決定。2：山岸、田坂、橋本三先輩と最後の寮における社行会、ビール。酒。焼酎、林檎酒；肴はケーゼ、短鱈の薫製；七輪を囲むでの牛鍋兼帆たて鍋。
心残りなく、食い、飲み、歌う
- 12-14 中村、竹井、鈴木、柳沢、久野入寮。昼飯はイモカユと味噌汁。
- 24-27 24-26：長谷川^附、岡、小林、竹井；25-26：兼松、山口；25-27奥住、釘沢、渡辺永沢
- 27-
1944/ 1/ 6 杉本、山田入寮；29：中村、竹井、久野入寮
30：稲川、三角入寮。1：渡辺、石坂、佐々木、斎藤入寮(途中吹雪で迷う)。4：一の倉岳。
3/20 石坂、渡辺、旅行制限を聞き、最後と寮を訪れる
6/ 5-10 杉本、大橋、内田入寮。6：鉄道の幹部が国鉄の小屋に来て雪崩の危険を避けるため、小屋を移すことを検討。7：大橋、内田、切符の売り切れを恐れて退寮。杉本、大倉沢-笠岳；8：杉本、幽ノ沢右・左俣中央の尾根をり登り芝倉沢に下る。
9：山の家の喜代志に召集令状
- 14-16 15：目黒、久野、荘野、S_{II}を登り雪渓を終りS_{III}の方の尾根に取りつく、久野スリップ、さらに目黒草付きでスリップ、いずれもザイル不携帯の不注目中村、安藤、鈴木、塚本入寮。3：竹井入寮；南条先生(日帰り)。薪運びとペンキ塗り；先生と打ち合せ小屋に残すものと、土台に下げる物を決める。
- 7/ 2- 7 21-28：石坂、稲川、竹中、吉坂、渡辺入寮。尋常科4年生は学校工場で働いていたが南条先生の奔走で28日まで休暇を得て入寮し、薪運び
土合山の家雪崩により倒壊
- 1945/ 1 3/23 目黒日帰り。土地の人によると、この冬の降雪は80年ぶり、或いは120年ぶりとのこと
- 5/ 1-3 石坂、稲川、渡辺、友人の父親の顔で上野駅長から切符3枚を貰って入寮。
土合の山の家はホールが目茶目茶、あとは傾いた程度預けた品物はなくなるとゆうので、リュックに詰め込み寮に向かう。西黒沢の橋が落ちていた。途中のトロッコ道はことごとく崩れて苦勞する
2：今年初めてのスキー、雨の中で成蹊スロープで猛練習。

終 戦

昭和十七年八月八日

虹芝寮創立十週年記念祭晚餐
 参集者氏名。

南 條 文 英
 井 上 烈
 高 谷 通
 山 岸 弘 男
 新 家 正 巳
 杉 本 正 勝
 田 坂 友 男
 橋 本 正 幸
 藤 野 直 也
 山 田 剛 太
 松 平 直 壽

中 村 成 章
 竹 井 由 之
 淺 野 開 作
 久 埜 收 吉
 石 坂 泰 夫
 吉 阪 昭 治
 田 邊 貞 男

(以上十九名)

中 屋 健 次

133

8月8日 曇 後雨。
 来 寮 者 中屋先輩 19.35分
 橋本正幸 6時.05分
 起床 6時.30分 直古に おそぎ、国旗掲揚、朝禮。
 7時.30分 朝食。

夕 8時.00分 武能岳。 山岸、竹井、石坂、吉坂、田邊、新家。
 9.20(寮餐) — 8時.00分(11.00) — 尾根着(12.05) — 武能岳(12
 — 下りキ小屋(1.50) — 着寮(2.25)。

夕 井上烈先輩の カットの下に 杉本、山田、藤野、松平、中村、橋本は寮
 大掃除。カットの煙突修理。寮内キレイアップ。

夕 田坂、浅野は沼田へ買出しに。寮餐(1.50) — 帰寮(5.15)。

夕 午後6時盛大に晚餐会を開催す。先づ神棚に拜禮。次にゴースト
 の霊に黙禱を捧げ、山岳班先輩の出立された方の武徳長入と祈って馬
 鹿の森に成蹊スロープを、6年間の貯蔵のウヰー酒を乾盃。カレー
 の豪華な食事に舌鼓をたたき、十年間、依然として我々の栄山山中屋に
 変わらぬ虹芝寮のふるさとを祝ひ合ふのであった。猶更に、やがて来る命
 日や、この日に、感謝の意をこめて、今後の安泰を祈念す。

- ◇ Menu
1. Tomato.
 2. Kyuri Sarada.
 3. Karé de Meet.
 4. Tenshin Momo
 5. Wein (Made in Koshiro)
 6. Okoshi
 7. Black Tea. usw.

141

8月8日、沼田買物

卵 (7丁) (1丁 2.95)	20.65
桃 (百6個)	2.86
胡瓜 (一貫目)	0.75
トマト (一貫目)	0.60
ナス (一貫目)	0.55
五分シホヤ、九ツホヤ	0.85
シシトマ	0.64
マツタケ (一貫目)	0.40
豆腐 (一貫目)	1.20
水揚げ (十五)	6.00
鮭	1.21
カレー粉	0.60
味噌 (一貫目)	0.47
酢	0.27
清卓 (一貫目)	0.78
ガラス (一)	1.00
(ガラス切)	6.80
シシトマ	0.20
	45.83

8月8日、沼田買物

野菜	9.63
土合買物	
鮭	1.00
草鞋	1.00
8月10日、木上買物	
野菜	
漬物	
土合買物	
米 (一斗)	

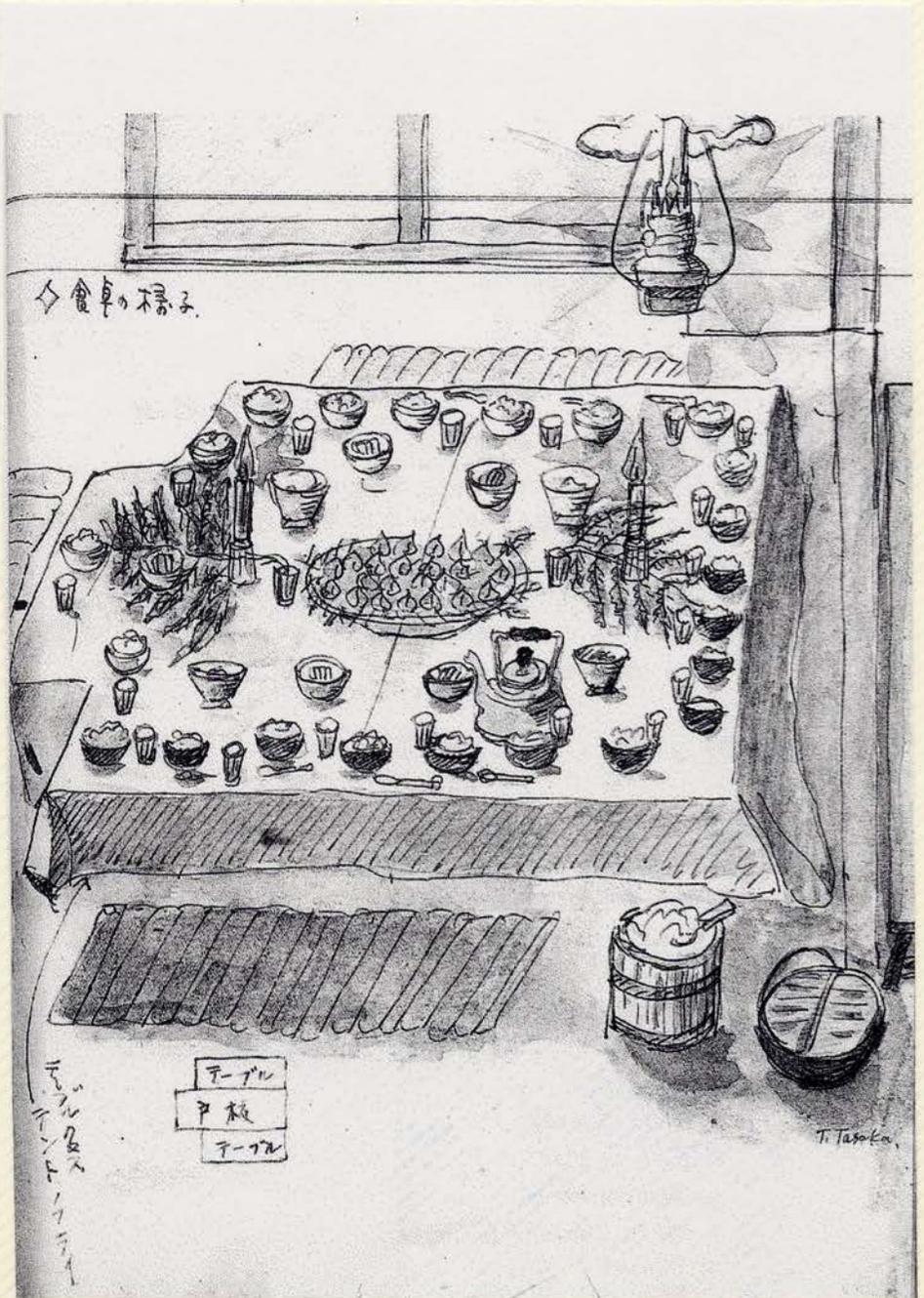
土合買物

醤油(和合瓶)
 鮭

◇ 慰霊祭の様子



◇ 食卓の様子



下-ナル
 中-板
 上-ナル

下-ナル
 中-板
 上-ナル

T. Tasaka

寮日誌抜粋(終戦以降)

- 1945/10/ 7-12 現役4名入寮。備品の盗難発見
 1946/ 2/10-13 山岸、田坂、田島、兼松氏の援助で交通難を押しして入寮。盗難事故の調査
 7/ 9 小林、佐々木入寮。盗難品の一部返還される
 22 芝倉沢SVより武能岳・蓬峠(岩崎、山岸)、尾根は入山者少なく道は大分消えていた。
 8/13 吉阪、石坂、渡辺、麩ノ沢右俣
 11/22-25 中屋、稻川他。中島喜代志に薪代支払い(薪10棚 1000円、同運賃 1000円) GHQ E. C. Grafton, 兼松他入寮
 12/24 吉阪、渡辺、日高入寮、汽車の混雑は1のボックスに23人
 1947/ 1/21 山田: 谷川岳滑降レース出場、10位、8分強。
 3/16-19 日本山岳会、今井喜美子、村井米子他中屋とともに入寮
 7/14, 15 深田久弥氏入寮
 1947/9/7-1950/1/4 日誌紛失
 1948 新制大学発足
 (1949/11 榎有恒、三田幸夫、中屋、渡辺、並木、戸田、瀬戸口入寮—並木: "ふりむけば山なみ"より収録)
 1950/10/27-29 大学山岳部合宿(踏高会、長富、立見参加)
 12/ 1- 3 高校山岳部合宿
 1951/11/27-29 岩崎他4名、スキーなしで吹雪の中を入寮、28日ワカンで下の小屋まで40分、退寮をあきらめ、折れたスキーを全部だして修理、ストックとも5人分を作り、29日退寮
 1952/ 9/ 6, 7 20周年。18名参加(別掲)
 9/21 渡辺、寮修繕指導のため入寮
 1953/ 7/ 1-16 東大植物学教室5名、湯繪曾川上流の植物調査
 1954/ 4/17 新島滋、谷口浄両君の遺影を寮に安置
 7/ 1- 5 東大植物学教室前川教官以下16名入寮
 8/ 7-9 建具、雨戸等の修理
 9-12 中学山岳部合宿
 27-30 中学山岳部第二次合宿
 1955/ 7/17 山岸、伊藤、吉村、木村入寮、Lieder-schatz 2部寄贈。薪は取り敢えず下の小屋から2棚 6,000円で分けて貰うこととした
 9/ 7 中学生物部小野先生以下入寮。壁にキイロスズメバチの営巣を発見、灰カーバイトの粉を水で練り、出口を塞ぐ。
 10/21-23 4大学懇親会開催
 1956/ 2/29-3/2 藤井、北原雪下ろしに入寮
 8/ 9-14 中学山岳部合宿(11名)、栗原校長参加、他にOB(大学)4名
 29-9/1 高校山岳部上原、小林入寮、一般学生を対称の寮生活(20名位)を計画。参加者は男子4、女子3。
 31: 西黒尾根より谷川岳往復
 1957/ 2/ 9-12 申田孫一入寮
 1957/ 3/18 大学山岳部員の魚沼駒ヶ岳から巻機山を経て虹芝寮までの縦走は悪天候のため、目的は達しなかったが、巻機山、牛岳に登り、夜半入寮
 9/ 6- 9 25周年。14名参加(別掲)
 12/ 5 ストープ火入れ式
 製作 佐藤鉄工所 深川森下町
 費用 煙突を含み 25,000円
 重量 約 40 kg ストープ 3.0mm 煙突 2.5
 運搬 土台一寮 人夫 3人
 1958/ 3/29 大学山岳部員、魚沼駒ヶ岳-巻機山-蓬峠縦走し寮に到着
 駒ヶ岳-巻機山 西口、木村、大池
 巻機山-寮 西口、柴田、馬場
 4/ 6 翁村、鈴木(踏) 巻機山より縦走して入寮
 11/22-24 木村、井草、周防、井上、大森、平沢寮修繕のため入寮: 台所水槽、床コンクリート打、屋根コーラル塗り、WC汲取等
 1959/ 5/ 3 高校山岳部加藤、福井カタズミ洞穴より稜線
 6/ 1 法政大学山岳部員芝倉沢クレパスに転落死亡
 7/28-8/3 中学山岳部合宿。8/1下痢患者12名発生
 9/30-10/3 大池、川端、15号台風の破損箇所修繕。屋根トタン修理
 重永、小野原、牧田入寮、土管の修理
 10/17-19 井草、他9名、土台よりトタン105枚、木材運搬
 11/21-24 馬場他3名器材運搬と寮修繕
 1960/ 4/27-5/3 大学山岳部新人合宿
 30日東京証券協会の1名カタズミ岩にて死亡の連絡あり、5名を応援に出す
 1961/ 8/ 5- 7 橋川、木村入寮、高木正孝以下神戸大山岳部合宿
 11/10-13 大学山岳部WC汲取、薪運搬(麩ノ沢との中間地点より)
 11/22-24 高校山岳部薪運搬。23日蓬峠(新しい小屋は鉄筋で今度は風に飛ばされることはない)
 1962/ 3/11 伊達、中川入寮、鼠の被害物獲く戸棚の中のもの日誌を残して全部焼却
 4/ 8 第1回OBスキー大会(於成蹊スロープ)
 4/19-23 土台にて雪、新雪20cm。マチガ沢までハイウェイができ驚く
 5/ 3- 6 岡部ほかスキークラブ13名入寮
 虹芝寮の周り一面テントの群れ
 10/ 6- 7 30周年 30名参加(別掲)
 11/30-12/3 大木、佐藤入寮。マチガ沢の丸太橋がコンクリートとなる
 1963/3/26以降日誌紛失
 1964/ 6/13-14 高校山岳部雪上訓練。荒井先生、AD 4 高校生13入寮。

- 6/15 岡部、飯豊山の帰途入寮
16 13:02 新潟地震発生。岡部等は芝倉沢・旧道
出合いで地震に会い、岩雪崩に遭遇、芝倉沢SbII
付近の雪渓亀裂、崩落を目撃(岡部の記事あり)
- 9/ 1 香西研ニカタズミ岩にて転落死亡事故
11-13 岡部、吉沢、田村 遺体収容後のαルンゼ点検の為
入寮
- 11/14, 15 南条先生卒業式、中屋、渡辺氏他27名
1965/ 4/10 OBスキー大会
29-5/5 大学新人合宿(12名参加)
12/ 7 香西のレリーフ埋め込み
1966/ 9/23-25 翁村、上村、浜田、竹内由里、藤井恭子入寮。
成蹊スロープ大岩の藤井清男の十字架の横に竹内詳のレ
リーフを彫り込む
- 1967/7/2-1968/2/19 日誌なし
- 1968/ 6/10 巖谷謙介ほか東大生遭難、カタズミ沢KⅢ下のスラブ
で発見
- 1969/12/27 大学山岳部仙ノ倉北尾根より谷川岳を経て入寮
- 1970/ 1/ 4 松江、相沢、荒井はSbI-SbIIの尾根より武能岳
1971 5/13-16 酒井、三ッ塚、久保田入寮。 14:三塚、酒井カタズ
ミ沢左俣上部雪渓で滑落、三塚死亡
6/23-24 管理課、木内、長沢、中村、施設課、三浦維持管理
に関し入寮
- 8/10-16 高校合宿。寮の補修がなされ少々改善されたの記事
10/ 3 故三ッ塚和政慰霊祭
- 1972/ 5/13 故三ッ塚和政一同忌、大学WV部員多数参加
10/20-22 踏高会合宿。木村、奥住、稲森、西田、紫竹、西塚、
大崎、太田、相沢、酒井、浅野、太田、平田、
平岡
- 1973/ 3/20-29 高校山岳部合宿。奥住、木村(AD)、西塚、紫竹、
押田、菅、上野、塩入(顧問)入寮。 21-27
白毛門一笠-清水峠-蓮峠縦走
4/14 平尾、戦前の日誌を保存版作製の為、東京に持ち帰る
5/12-13 故三ッ塚和政の追悼山行。同君父母、祖父、大学WV
OB16名入寮。岩崎、渡辺のレリーフの前にお地蔵
さん設置
- 8/ 1 西塚石油コンロ2台搬入
9/15-16 41周年。30周年以降寮祭が行なわれていなかった
のと、明年から暫らく外地勤務となるので集会を呼び掛
けた。参加者:成瀬、中屋、三枝他27名(別掲)
成瀬、三枝は16日清水峠小屋一泊、朝日岳-宝川
11/16-18 西田、川崎、酒井、太田、三角冬の食料荷揚げ
12/30-
- 1974/ 1/16 西田、酒井入寮;1/3以降逐次入寮者あり。
4:西田、上野、渡辺、木村、西黒尾根-本峰、春の
ような好天
3/17-27 高校山岳部合宿。18-22芝倉沢後線に幕営、本峰
等に登る。
4/22, 23 岡部長憲、るみ入寮
夜半(PM 11, 30頃)ごうとゆう音、外に出て
みると寮の20m位のところまでブロックが来ていた
5/17-19 日本山岳会第14回技術講習会
- 6/ 8- 9 寮整備の為木内管理部長、平尾、紫築、
太田、渡辺、角田入寮
8/31-9/1 42周年;中屋、渡辺氏他19名
9/21-23 太田、堀川夫妻他入寮。22:丸山沢より白毛
門
10/11-13 磯野、重井(名古屋大)入寮、12:烏帽子奥壁
16-21 磯野入寮、17-18衝立
1975/ 4/24-25 日本山岳会技術講習会。渡辺氏、磯野他43名
8/18 雨量少なく流量の減少で流しの水が止まった。
8/30-31 東大山の会、渡辺氏他8名、他に磯野入寮
9/13-15 43周年。19名
10/ 9-12 磯野、牧野内(東大山の会)入寮。10:
衝立岩南壁台ルンゼ。日本山岳会ナンダ・
デヴィ隊7名入寮
1976/ 1/ 4-7 遠藤、兼巻入寮。磯野、相沢一の倉烏帽子奥
壁凹状壁2ピッチ(雪の付着少なく夏と殆ど変わ
らない)
3/ 4-20 遠藤、矢澤、三根、兼巻入寮、東側窓、北側
廊、戸袋人為的破損発見。8-15:三國峠
縦走編寮
21-31 高校合宿(永沢、副島、矢向、須須木)、教
諭(青木)、踏高会(菅、西塚、福島、紫築
太田)。24:マツウ沢-武能岳、28-
29:大倉-朝日-清水峠
10/ 8-18 8:遠藤、岡村、幽ノ沢正面フェース右ルート。
17:根本、岡村、一の倉南壁; 西塚、遠藤、
幽ノ沢V字岩壁右ルート
22-24 西塚、遠藤、紫竹、後藤兼巻、中島他7名
薪運搬、布団整理
11/14, 15 大学山関係団体による寮祭、27名参加
1977/ 4/29-5/4 スキー山岳部合宿
5/ 4- 8 大学山岳部、高校山岳部(7日より)合宿
6/24-27 24:岡村、中島、衝立岩正面壁ダイレクト
26:遠藤、武藤、中島、中央壁
7/ 9-10 10:磯野、岡村衝立岩南壁ルート
14-17 15:磯野、後藤烏帽子中央カンテ
16:磯野-松崎、遠藤-中島、幽ノ沢中央
壁正面
26-31 大学山岳部合宿。27:幽ノ沢、V字岩壁右
ルート;同左長大滝右、左ルート
31:磯野、溝口、一の倉2ルンゼ-ザッテルー
滝ルンゼ。中島、末松、同4ルンゼ
高校山岳部:魚沼駒ヶ岳より縦走し入寮、
(現役:芹沢、熊崎、山下、増沢、江上、市橋、
村瀬、小山。AD:赤松、紫竹。
青木教諭
9/ 3, 4 牧田、赤松、磯野。渡辺氏他ナンダ・デヴィー隊
入寮。渡辺氏、63才、磯野、一の倉2ルン
ゼ-ザッテルーBルンゼ
17, 18 45周年。成瀬、渡辺氏他25名
11/ 5 スキー山岳部現役4、OB7、故鈴木亮家族と入
寮、遺影安置とレリーフの位置選定。
12/24 キャンピングツアー5名他2名入寮。成蹊小学
校で不要となった給食用の大鍋搬入。



9月6日(日)晴

朝 現役市嶋以下6名 来参

晝 100 立見辰雄 来参

500 山下助四郎、梅地慎三、渡辺八郎、... 以上来参
南條文英 会長

成瀬岩雄、渡辺兵力、田坂友男 来参

830 橋本鉄郎、新家正己 来参

930 井上烈 来参

106

9月6日

虹芝堂 20周年記念 晚餐会。

参加者

山下助四郎 (踏)

梅地慎三 "

成瀬岩雄 "

立見辰雄 "

市嶋知夫 (水)

浜田弘 (高)

圓山崇雄 "

斎藤太朗 "

橋本鉄郎 (踏)

井上烈 "

渡辺八郎 (踏)

南條文英 "

渡辺兵力 "

田坂友男 "

北原義浩 (高)

上村洋三 "

藤井清男 "

新家正己 (踏)



要修理箇所への点検。



- 1978/ 3/ 3- 7 3: 酒井、遠藤、岡村、松崎: 一の倉2の沢より本峰。
北田(好日山荘)、久保、溝口、武藤、磯野: 一の倉
4ルンゼー一の倉岳-芝倉沢
6: 磯野、久保: 幽ノ沢左俣大滝; 遠藤、溝口、同
3ルンゼ(途中ビヴァーク、7日帰寮)
20-29 高校山岳部合宿。 21-25: 熊崎、市橋、村瀬、
小川、江上、芹沢、増沢(以上現役)。紫竹、
赤松(AD)、青木先生、白毛門-蓬峠縦走。
27: 本峰
5/13, 14 故鈴木亮レリーフ設置、慰霊祭
5/27, 28 福田、後藤正: 天神-本峰-芝倉沢、雪多く旧道下迄
滑降
6/ 2- 4 2: 成瀬(一泊)。 松崎、磯野: 衝立岩正面A
字ハンダ
17-18 磯野、遠藤、芹沢、紫竹寮改修工事下準備に入寮停滞

改 修 工 事

- 11/ 5- 8 工事終了。 西塚、紫竹、磯野、北田(好日山荘)入寮
18-19 虹芝寮改修祝。 渡辺兵他60名参加
12/23 キャンピングツアー3、他6名入寮。雪少なく20cm
1979/ 3/20-23 高校山岳部、山下、石橋、後藤仁入寮。初心者石橋の
スキー訓練で芝倉沢を登る。 登り4、下り4時間
4/14 渡辺兵、西塚、磯野、他に東大山の会15、岩波書店
2名入寮
28-30 高校山岳部合宿。現役、山下以下6、青木先生 溝口、紫竹
後藤仁、西塚。 スキー山岳部6、同0B1入寮
5/12, 13 故鈴木亮慰霊祭、鈴木家族、友人20名参加
19-21 牧田吉、日本山岳会雪上技術講習会(野口、海野を含む)
27 磯野、藤原: 幽ノ沢中央ルンゼ登攀後立ち寄り
6/ 1、 2 コナカダイ幼稚園幼児入寮一泊

1979/6-1981/10迄(日誌No. 21)欠

- 1981/10/12, 13 熊崎、山下、紫竹: 一の倉2ルンゼ-βルンゼ
1982/ 3/22 高校山岳部(現役、石川、成見、渡辺雄; AD山下、江上;
青木先生)入寮。 23: 白毛門-蓬峠縦走に出発、悪天候
の朝日原にて3日間停滞、大倉尾根より27日帰寮
4/29-5/3 大学山岳部雪上訓練(芹沢、植松、塩瀬、武田、
武田、林、高橋)施入寮。 三枝、布渡入寮。 1:
高校山岳部合宿(石井、成見、渡辺雄、宇野先生)入寮
10/15, 16 50周年記念祭
22 寮整備、スノーダンプを備える
12/25, 26 瀬戸口他X-masを楽しむ
1983/ 3/10 紫竹他大学現役入寮。13: 東尾根
14 高校現役入寮(AD山下以下4)
5/15 故鈴木亮レリーフ整備(ご両親他入寮)
7/27-8/4 中学合宿(1名発熱、水上え搬送)
10/ 8, 10 寮 祭
28-30 大学山岳部入寮。高橋・相沢遭難事故
1984/ 4/1-4 高校合宿。3: 大倉尾根-笠岳
1984/ 5/26, 27 川田他赤倉沢-大倉岳
7/26-31 中学合宿

- 9/ 1 成瀬岩男氏遺族来寮
27 後藤正彦他5名なめこ狩りに入寮、成蹊スロープ
わきで白骨死体発見
1985/ 6/21, 22 寮整備-以後毎年この時期に
7/26-8/1 中学合宿
8/09-11 高校学習旅行で入寮
9/20-28 紫竹・山下: 衝立岩
10/10, 11 寮 祭-以後この時期に毎年
(この時より炊事用にプロパン使用?)
12, 13 酒井・紫竹: 幽ノ沢左俣滝沢
1986/ 3/12-14 高校春合宿
19-23 山下・山本入寮、22: 瀧澤テラス
25, 26 山下・山本入寮、26: カタズミKm
4/30-5/ 4 TBS撮影(1回目)
7/26-31 中学合宿
7/25-27 山下他1入寮。26: 烏帽子変形チムニー、
27: 幽ノ沢中央壁
1987 3/20-24 高校春合宿(熊崎参加)、21: 西黒尾根-本峰-
天神; 22: 白毛門-赤倉沢
1988 4/29-5/4 布施・西田、29-3; 三枝・井草、1-3;
圓山、30-3; 他に福田夫妻、大久保、石橋。
29, 16: 20 女性1名を芝倉沢に残し男性1、女性2が
来寮。西田土合登山センターえ。 幕営中の明大パーティー教
助え、旧道下400mにて遺体発見。 30, 9: 15センタ
ー・警察関係者到着、10: 20遺体収容し帰寮
2: 三枝・井草縦線
7/27-8/2 中学合宿; 29: 東黒沢-白毛門-清水峠、
31: 西黒沢-本峰-蓬峠
12/23-25 三枝・松平CDを担ぎ上げドイツ学生の歌等を読み
X-masを楽しむ
1989/ 3/22-25 高校合宿、27: 鈴木、山中西黒尾根より本峰。
天候悪化で避難小屋に一泊、翌日悪天候の中を天
神尾根を下降帰寮
5/ 2- 三枝、西口、井草、布施、福田夫妻、高橋良、梅
田父娘、圓山、同友人など多数滞在。3: 三枝・
井草、縦線; 4: 三枝・井草ほか縦線
7/ 9 熊崎・高市、燃料貯蔵庫の設置
26-8/1 中学合宿-一略毎年同じ-以後省略
9/18, 19 高市・山中: 一の倉3ルンゼ
11/ 3 松平マウンテンバイクで入寮、日帰り
1990/ 5/ 3- 滞在者: 木村繁家族、福田、布施、西口、香西純一
小林恵子、梅田父娘
5/ 6- 滝沢他JACバミール登山隊員
9/12 熊崎・高市発電機修理の為おろす
21-24 近藤和美; 昭文社「谷川岳」新版執筆の為の調査
10/13-14 寮 祭、今年は中学山岳部部員も参加
14-17 近藤和美再入寮
1991/ 5/ 3- 入寮者: 松平、布施、圓山、河村親子
3: 例年と異なり、昨夜から雪、冬の如し。
8/23-9/9 大学合宿。 24: 山中・竹林、一の倉「コッ
プ」、途中ビヴァーク。引き返し帰寮。 27:
山中・竹林、マチガ沢本谷。 1: カタズミ岩
αルンゼ

- 9/ 7 高市、山崎、滝沢：湯檜曾川本谷
23- 日本山岳会ムスタグ遠征隊合宿
1992/ 4/ 3-6 日本山岳会山スキー講習会
- 5/ 2-4 入寮者：三枝、布施、石橋、高市；福田、千田（友人）；
中村弘子（故中村春二氏親戚）他。雪少なくスキー携行せず
3：三枝、石橋、福田、千田蓬峠、七曲がりは勿論峠にも
殆ど雪なし。
- 10/ 3-4 60周年記念寮祭。ストーブ取り替え
- 1993/ 3/ 2-4 三枝、塩沢、玉木（東北大山の会）
3：快晴なるも気温高し、蓬峠に向かうも雪重く白樺尾根非難
小屋より引き返す
- 4/29-5/5 入寮者：三枝、布施親子、木村、福田、千田。
現役、熊崎他は天幕（5/3-5）
- 6/18-19 TBS2回目撮影。渡辺兵、三枝、熊崎、高橋良、福田美、
布施、他VW現役、OB。
- 10/ 9-11 寮祭兼大学合宿。9：幽ノ沢右俣カールポテンにて岩場
救助訓練（15名参加）。10：三枝、蓬峠；現役・OB
は8班に別れて行動。11：成蹊スロープでアヴァランチビー
コンの訓練
- 1993/ 4/29- 入寮者：翁村、有田（友人）；三枝；大村、小林、大葉
（東北大山の会）；布施、梅田父娘；圓山、河村（友人）；
西口夫妻、山田（友人）。
4：三枝、圓山、梅田父娘、西口、菱塚
- 6/ 3-5 高木正孝の33回忌を迎え神戸大学山岳部OBの一行
15名入寮
- 10/ 6-10 柿沼、塚田入寮。7：大槍右岩稜を登りあと80m
を残し下降。
8-9：山岳遭難救助研修会。9-10：寮祭（16名）
- 1995/ 1/ 2 坂口入寮、土合より輪カンで9時間半
- 4/28- 入寮者：布施；小山、松永（高4卒）；圓山、川田父子、
西口、梅田父娘。
（一の倉沢出合い下で湯檜曾川流路変わり徒歩が必要となる）
- 6/ 3-4 荒井信一先生古希祝い（12名参加）
- 10/28, 29 山岳救助技術研修会兼寮祭
入寮者：渡辺、三枝、塩沢（東北大山の会）、布施、金
井、熊崎夫妻、菊地、高市、鈴木
風呂を設置
- 1996/ 4/28-5/4 入寮者：三枝、布施、熊崎夫妻、鈴木。西口、
梅田父娘、柿沼、五十嵐、塚田、打矢、足立、
野口、
28-5/1：大学合宿
29：三枝、熊崎夫妻、鈴木赤倉沢（林道）
（例年になく残雪多い、土合橋よりスキー可）
- 7/25-8/3 中学合宿、25-29
大学合宿、28-
28：柿沼、相沢、中央稜
1：柿沼、相沢、南稜
- 10/ 5 薪搬入（トラック5台）
6 木村、金子利根川河口より264kmを8日を掛け
て入寮
- 12/30 相沢、柿沼、足立、五十嵐、三國峠（12/24）
より縦走して入寮
- 1997/ 5/ 1-5 大学新人歓迎合宿。雪上訓練
入寮者：布施、三枝、西口、熊崎、柿沼、山中、
佐藤大、鈴木、現役新人榎原他5
- 6/28-29 寮整備：熊崎、増沢、鈴木により布団置場の棚、
台所の棚作り
- 8/17, 18 足立他現役万太郎谷-谷川岳縦走して入寮
- 9/13, 14 熊崎、二宮、すずめ峰退治
27, 28 JAC青年部合宿
- 10/25, 26 改築20周年（参加者14名）
- 1998/ 1/16-18 鈴木、相沢15大雪の中を成蹊を出発、土合着
17:30。土合橋で車中泊、16、14:40
入寮。
2/18- 熊崎夫妻；マクガヴァン、マスダ（カナダ
山岳会）入寮
- 5/1-5 大学現役合宿：榎原、斎藤、宮内；
石橋、星野、辻（友人）；三枝、布施、翁村、
西口、井草、梅田、増沢、柿沼、塚田、相沢
寮周辺殆ど雪なし、芝倉沢カールポテン下デブリなし
稜線近くは草付き；一の倉頂上雪なし。

50周年までは「虹芝寮日誌、ヒュッテンブーフが語る半世紀」より、それ以後は最近コピーされた寮日誌、22、23、24、
25、26号より抜粋； 27号は寮にて使用中に付き在京せず、抜粋できなかった。
雪下ろし、夏・秋の寮整備は省略した時もある（2003/10/12）。



1988/12/27-29

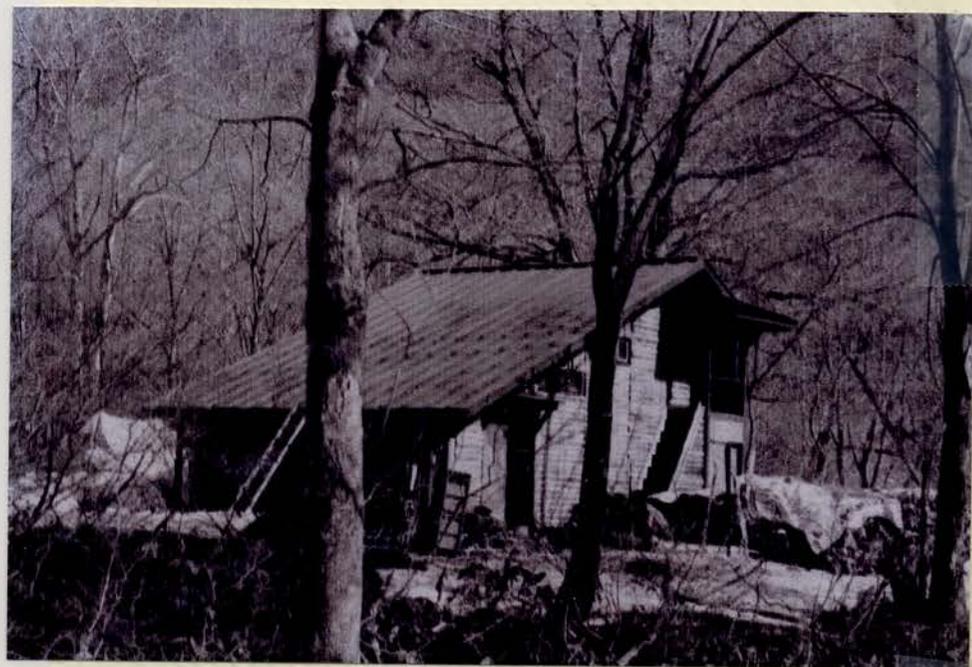
11/8 ~ 11/11

虹正家再建記念
 多馬物感激の至り
 御目出度、諸元、御力
 御元氣、改築して下さり、誠に
 感謝！ 今僕も、

渡辺 同村 中田 上野 佐原 小西 萩金 不取 矢石 青木
 三郎 豊田 山村 吉原 裕正 敏正 容太郎 幸七 啓典
 鐵山 淳彦 佳吉 三義 正 子太郎 幸七 啓典

木下 石川 小幡 斎藤 伊藤 渡辺 竹林 久保 熊崎 十石 池田 菅 小寺 小野 入房 石野 野口 庄
 慎也 隆 秀典 研 博志 茂 和彦 和彦 信文 奈人 彰 美保 東 剛太 哲郎 大作

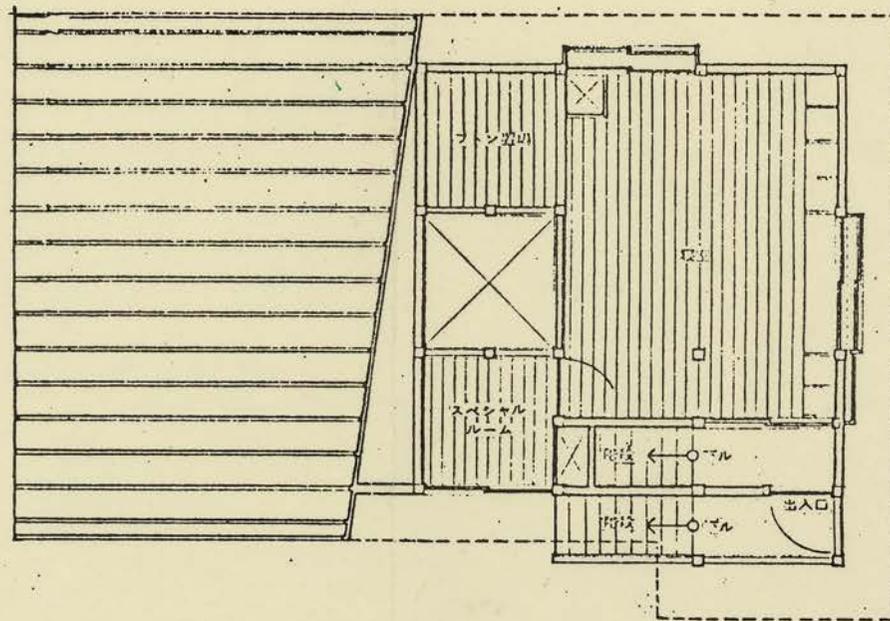
三田 三田 三田
 三田 三田 三田



1982/4/29-5/3

X1 X2 X3 X4 1020 X5 1820 X6 1820 X7

Y1 1620
Y2 1820
Y3 2020
Y4 910
Y5



1 階 58.20[㎡]
2 階 29.49[㎡]
★ 計 85.69 (25.8[㎡])

2階平面図

1978(昭和53年)の改築・再建

s50年頃から寮の痛みが烈しくなり、s52年(1977)/11渡辺、小西、翁村(以上建築家)、西塚の4会員が現地調査。寮は旧道方向に約20cm傾いており、この傾きは積雪の為、年毎に加速すること、さらに建物の構造上にも弱点があることが判明し、検討の結果、一度寮を解体して、基礎から打ち直して再建する事となった。

特に以前と変わった所は:

- スキー置場を廃してストーブの回りのスペースを広くした
- 床はレンガ敷きとし不燃構造に変更
- 入り口の位置を、台所に直接材料等運べるように変更
- 発電機の導入

工事はs53(1978)/6に着工、同年11/2完成、竣工式は同18に中学山岳部員を含む60人が参集し、盛大な寮祭が行われた。

その後の改造

ストーブの交換

60周年(1992/10/3)に新式のストーブを入れた。小型ではあるが完全燃焼式で長谷川会員の製作による。このストーブの空気の取り入れ口は水平、薪投入口の扉はやや傾斜し、両者を閉じれば完全な密閉となる。したがって、薪に火が完全に廻った時に密閉すれば、炭焼きと同じように薪は炭となって、長時間温度を保つことが出来る。次に薪を入れるときは、オキを口元に(空気入れの近くに)集めてから薪を入れる必要がある。

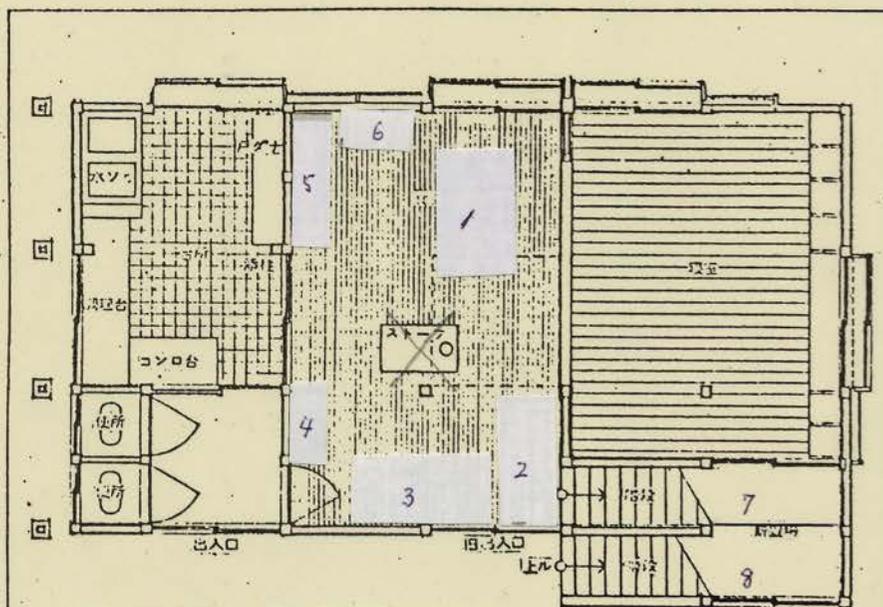
2階との連絡通路

その後(1998)に2階との連絡をよくするために、階段の下に張り出しを付けた。この為に2階はサンダルなしで行けるようになった(従来は上がる時はサンダル、下りる時は梯子使用で、サンダルが2階にたまってしまふことがあった)。

薪の棚設置

上記の張り出しにつけて薪の棚を設置。この位置に薪を積み、その上が荷物置場となり、薪の取出しが不便であった。新しいストーブは小型で、薪の補給にあたって、薪の燃えている状況に合った薪を選ぶ必要があり、荷物を置かれてはこれが出せず、不具合な薪を入れて、かえって火を消す原因となった。この棚は上下に別れ、上段は手を加えずそのまま投入出来る薪を、下段は小屋内で割るか、或いは火の状況によって上の棚の薪と混ぜて燃せる薪をいれる為のものである。上段の薪の棚は荷物置場(ザイル、その他)として使える。

X1 910 X2 1020 X3 1820 X4 1820 X5 1620 X6 1820 X7



- 1 新しいストーブ
- 2 廊下、2階へサンダルなしで上られる
- 3 薪置場
- 4 靴置場
- 5 戸棚(嗜好品)
- 6 戸棚(主に備品)
- 7 寝具入れ
- 8 燃料、雪かき等の道具入れ

（左）地味平図

1階平面図
配置図

10/15 Fri. PM 10:59

虹芝寮50周年記念祭のため入寮しました。明日私達は記念祭とともに21回目の誕生日を迎えることになると思います。どうせ53歳です

↑
121回目のアヤマリ。

大学山岳部 Takashi Okabe
CC Danka

6月10日に入寮していろいろです。お久しぶり 15-out 82! ←
ぶりです虹芝寮? その時には目標だった赤石沢も又東壁スラブも陥しし、ついに冗談であった奥鐘もも陥しし、何かがいい気分です。特に奥鐘は当初の目標であった紫字会とどうやら、OCCとまで行けた。今年のフィナーレをさげすばうしくシビる屋敷壁を
した。来年もこの調子でいきたい。
しかし久しぶりの虹芝寮、いつもの様に静かにむかえてまいりました。ホクホクしているのが残念ですが、谷川の空気が胸をいっぱいにしる都会へ戻りたい。

3-D-22の福田さんじゃあ何の福田。

実はフィナーレではないという話がある

10/16 ●(雨)

今シーズンは、谷川の楯立が始り 赤石沢奥壁、徳高、丸山東壁、そして奥鐘西壁へと攀りまくった。一週間後にシーズンのしめくりにして、ふたたび一合をやる予定。あとは城ヶ崎、日和田...
そして来シーズンはフリーのピロギルトを やりたい。
大学山岳部 2年... Okabe.

昭和57年10月16日 小雨

虹芝寮 50周年の集り、

前日から現役の連中が、このお祭りの準備をして、行方についてくれたところへ、先着のOB連中がバラクとやうに来て、夕方より、お祭りの集いの会をのんびり

50年と30日前の今日、このお集りが出来た。

10月16日 14時20分 海野治良氏と土合で
会... 3時15分 東峰 (61回目) して50周年祭の
お集りされた。 井上 烈

虹芝寮50周年。私も学生最後の年に、このお祭りに
お集り機会がえられ、大変嬉しいです。

三菱銀行 虹芝寮支店長 芹沢 修

参加者

渡辺 実力
石渡 実
井上 烈
渡辺 敬介
中西 直久

上村 幸三
翁村 俊男
渡田 弘
牧田 吉明
青木 正典
生田 正美
須木 裕太
木村 幸雄
宇の 利玄
西口 雅

三浦 浩一
佐藤 晴志
岡部 長寛
遠藤 大作
溝口 藤夫
西角 裕幸
芹沢 修
熊崎 和宏
岡部 洋一
石橋 佳丈
福田 昌克
大久保 正
徳田 有宏

紫竹 土詞左衛門
太田 真三
後藤 仁
海野 治良

武田 和也
高橋 良子
武田 里香
林 美和子

計 36人

虹芝寮六十周年祝典

式 辞 前夜祭 1992/10/ 3

式 典 1992/10/ 4 正午 - 15:00

参加者 招待者 社団法人成蹊会 常務理事 谷岡 喜久蔵* ¥10,000
 代 理 根岸 孝彰
 学習院山桜会 川崎 巖 30,000
 費田 統亜
 網川 詳夫
 成蹊大学WV部石南花会 高木 裕 10,000
 好日山荘 社長 海野 治良 10,000
 (* 不参加)

主催者 学校法人成蹊学園 専務理事 三橋 啓了
 財務部長 左中 努
 ”課長 篠原 直俊
 熊崎 和広 (踏高会)

一 般 百濟 弘 (私立武蔵高校、飛び入り)
 磯野 温子
 熊崎 皆子

踏高会 渡辺 兵力(会長) 三枝 守雄 井上 烈
 布施 市蔵 木村 繁 円山 崇雄
 金井 徹 翁村 佳男 小林 真三郎
 浜田 弘 柴田 雄二 西口 雅
 堀口 勝弘 竹林 博光 川田 詔
 平岡 義章 木村 幸雄 赤松 立太
 太田 真三 後藤 仁 溝口 藤夫
 磯野 剛太 山下 俊一 石橋 佳文
 福田 昌克 武田 和也 高橋 良子
 石川 隆 篠田 貢 高市 豊義
 坂口 隆太郎 山中 康正 鈴木 直樹

山岳部 滝沢 守生 富沢 豊 竹林 太一
 佐藤 大輔 塚田 功 菊地 由紀子

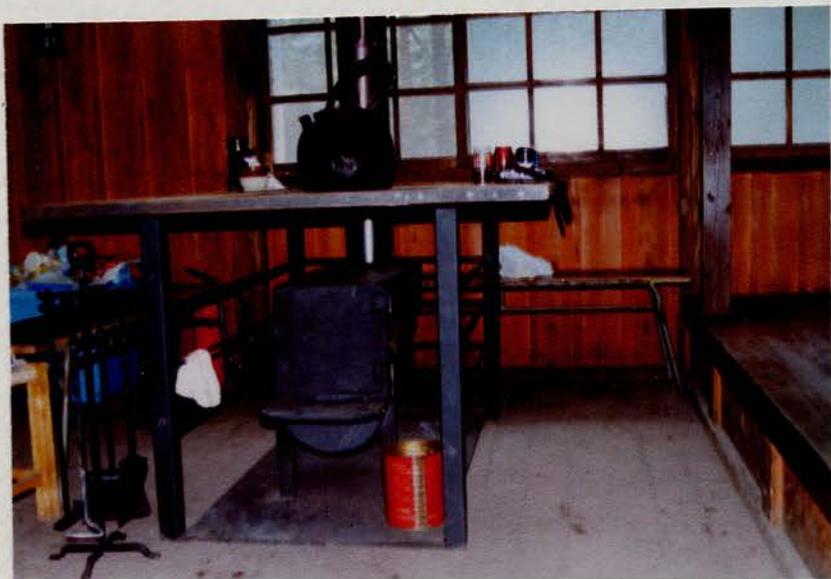
以上 51名



60周年新年祭 1992/10/3-4

学園からは三橋専務理事、そのた学習院山桜会などの招待者を含めて51名の参加があり、盛大であった。夜は一部の人はテントに宿泊。

式は 10/3 前夜祭
4 午前中鉄塔までハイキングを行い、帰寮後式典、会食
会食後適宜解散





前夜祭



鉄塔にて



会食



70周年記念

1930の秋から旧制高校山岳部（当時旅行部）と其のOB会（踏高会）の山の本を読む会を部員の家を順次回りながら開いていたが、その折りに自分たちの小屋が持ちたいとの希望がでて、場所の検討、敷地の調査、設計、営林署との交渉、道路作り、敷地の整備、現場監督までを主体的にやり遂げて、1932年9月に小屋は完成し、当時の浅野校長が「全唐詩」（呉作）の一節から採り同月15日に現地で行なわれた開寮式で虹芝寮と命名された。此の様な次第で虹芝寮は当時の成蹊教育を象徴する存在であった。しかし、時代の変化と共に此の様な事実が風化しつつあり、70年の記念行事は従来と趣を変え、此の様な過去を再認識する意味で、建設当時ならびに戦時中の困難な時代に寮の維持に努められた先輩に寮を願って現地でお話を聞く事を考えた。しかし、これらの方々の中には老齢の為め現地参加は不可能な方もあろうと、たまたま学園90周年で史料館の整備される年でもあり、桜祭りの当日学園の後援を得て、虹芝寮70周年記念の集会を下記のごとく開催することとした。秋には虹芝寮で例年どうり10/26,27に寮祭を行なった。

虹芝寮70周年記念祭

1. 開催日時 2002/4/7(日)、10:00 - 17:00
2. 場所 成蹊学園キャンパス
3. 行事
 - ① 虹芝寮関係史料展示、於学園史料館
 - ② 先輩諸氏による記念トーク、大学3号館：13:00-15:00
第1部： 基調トーク「成蹊学園と虹芝寮との間、渡辺兵力」
第2部： 「虹芝寮創建の頃の思い出」、先輩諸氏
 - ③ 記念パーティー： 大学10号館12階ホール、15:00-17:00



前列、向かって左から

太田新生(12文甲) 渡辺敬介(14文甲) 渡辺兵力(8理甲) 松平直壽(18文乙) 稲川 昭(21文甲)
石坂泰夫(21文乙)

後列、向かって左から

三枝守維(理8乙) 石渡 実(7理乙) 長富修吉(6理乙) 丹治道生(4理甲) 兼松 學(5文甲)
井上 烈(14文甲) 中西直久(21理甲) 吉坂昭治(21理甲)

水谷政静(理9甲)、藤野直也(17文乙)、大野徹三(18文乙)の3氏は先に3号館に移動



松平、司会者



渡辺



丹治



兼松



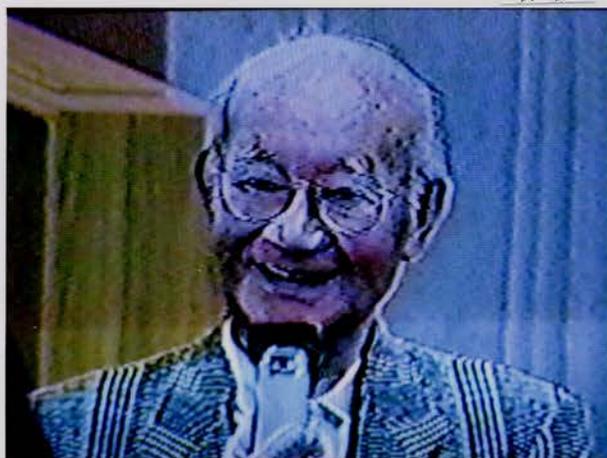
長富



石渡



三枝



虹芝寮70周年記念パーティ出席予定者表

02/04/07

加藤節 様	成蹊学園専務理事		
柳井道夫 様	成蹊大学学長	大久保洋子 様	大学学生部長
横地 孝 様	成蹊中・高校長	荒井信一 様	高校顧問OB

旧制卒年次順
新制あいう順

ご氏名	卒年次	ご氏名	卒年次	ご氏名	卒年次
丹治道生 様	旧 4	相川正汎 様	高1961	芹沢 修 様	大1983
兼松 學 様	旧 5	五十嵐雅人 様	大1998	西口 雅 様	大1959
長富修吉 様	旧 6	井草洋太郎 様	大1961	西田悠一 様	高1966
石渡 実 様	旧 7	池田光朗 様	高1963	浜田 弘 様	大1958
渡辺兵力 様	旧 8	翁村佳男 様	高1954	原谷祐三 様	高1967
三枝守維 様	旧 8	大久保正 様	大1985	平岡義章 様	大1973
水谷政静 様	旧 9	奥住春樹 様	高1971	平田史朗 様	大1976
太田新生 様	旧12	柿沼恭介 様	大1998	福田昌克 様	大1985
井上 烈 様	旧14	角田 徹 様	高1974	布施市蔵 様	大1956
藤野直也 様	旧17	金井 徹 様	大1958	藤野 薫 様	大1960
松平直寿 様	旧17	金子喬一 様	大1960	牧田友太郎 様	大1963
大野徹三 様	旧17	上村洋三 様	大1958	松本春次 様	大1956
並木伸夫 様	旧19	川田 詔 様	大1975	圓山崇雄 様	高1953
中西直久 様	旧20	北原義浩 様	高1954	宮澤克夫 様	大1963
稲川 昭 様	旧20	木村 繁 様	大1957	山本進太郎 様	高1955
吉坂昭治 様	旧20	熊崎和宏 様	大1984	竜 崇正 様	高1962
石坂泰夫 様	旧21	小坂二郎 様	高1962	長谷川潤 様	現役
		小西敏正 様	高1962		
		小林真三雄 様	大1959		
		佐藤大輔 様	大1995		
		鈴木直樹 様	高1990		



西口 伊藤 平岡 平岡夫人 布施 原谷 鈴木 並木 角田
 翁村 藤野 三枝 牧田 圓山 若井 坂口

参加者 学園関係：鬼武(管財課長)、関根(学生部生活課長)、伊藤(広報課長)
 踏高会：三枝、並木、布施、圓山、翁村、金井、上村、小林、
 浜田、西口、藤野、牧田、伊藤、原谷、平岡夫妻、
 川田、角田、坂口、若井、鈴木
 山岳部：長谷川 (翁村撮影)
 (学園関係者3名、川田は会食終了後退寮)

10/25 快晴
 午後布施、金井、小林、牧田入寮

10/26 晴後曇；夕刻より雨
 金井、小林：蓬峠より土樽越し夕方帰寮
 伊藤、原谷、牧田：旧道より白樺非難小屋え、七曲がりを下り帰寮

学園の3氏の着寮を待って虹芝寮創設の謂れを書いた銘板を1階入り口に設置

18:30：全員集合。
 牧田幹事の挨拶につづいて、三枝会員、来賓の鬼武課長の挨拶、並木会員の乾杯の音頭でカンピールで乾杯、つづいて料理担当の鈴木会員の一言があり、70周年記念晩餐会を開演。何時もながらの鈴木会員の見事な味付けの芋煮鍋を囲んで歓談。
 20:00：布施会員の中締めで一次会を終わり(鬼武課長はか学園関係者、川田会員雨の中を退寮)、引きつづき二次会に入った。ストーブを囲んだり、食卓の周囲に集まっての歓談は例年のごとくであったが、今回は並木会員の美声に唱和してドイツ並びに日本の歌曲の合唱もあり、ちよっぴり戦前の寮生活の雰囲気味わう事が出来た。此の様な楽しい寮の一夜は22:00発電機停止後もガスランプの下で遅くまでつづいた。

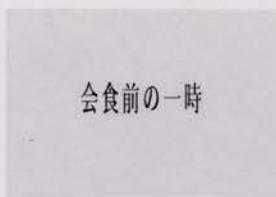
10/27 晴
 昨夜の雨は晴れ上がり、坂口会員をリーダーに紅葉を眺めながらの蓬峠えのハイキングを行なった(並木、圓山、西口、原谷、角田、途中迄；坂口、長谷川、峠迄)。



00



01



10



11



12



13



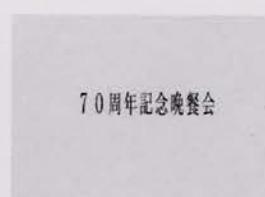
14



15



16



20



21



22a



22b



23



24a



24b



25



26



27a



27b



27c



28



29a



29b



29c



29d



29e



29f



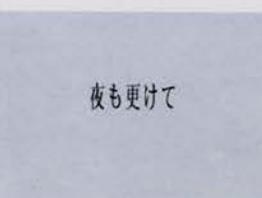
29g



29h



29i



30



31



32



33

4月の学園における記念祭と、虹芝寮における寮祭では写真撮影の係がいて記録写真を撮っているものと思ひ、自分は一枚も撮らなかつた。最近までに入手したのはここに展示した数枚のみ、とくに記念パーティーの写真は一枚もなく、残念。幸い上村さんの好意で彼撮影のビデオを頂いたので、これから若干の駒をデジカメでコピーしてここに掲載した次第。

寮生活あれこれ

スキー練習

山に登れないときには成蹊スロープや寮の前の緩い斜面でスキー練習をした。

我々が成蹊在学当時は山やスキーの映画が多数上映され、例えばシュナイダーの“スキーの驚異”¹⁾、トレンカーの“火の山”²⁾、リーフェンシュタール他の“白銀の乱舞”³⁾があった。練習の主体はシュナイダーのオールベルグスキー術であったが、余興として映画に出てきた通称“犬の小便”と称したクリスチャニア（シェレンクリスチャニアの外足を上げる）、“中抜きジャンプターン”、“トンボがえり（両杖を利用して逆立ち、そのまま進行方向に倒れて着地し、滑って行く）”等を試みた。これがエスカレートして小屋の屋根の上からの“トンボガエリ”等も行なわれた。

いまは中抜きは勿論オールベルグスキー術を見ることは出来ないので、渡辺兵力の中抜きと滑降を掲げた。この写真は1940/3の尾瀬合宿で東電小屋の裏山で撮影したものである。

- 1) Wunder des Schneeschuhs
- 2) Berg in Flammen
- 3) Der Weisse Rausch



シュテムクリスチャニアのフィニッシュ



中抜きジャンプターン

トンボガエリ 練習
 目賀ニ杖、両足、上段の杖は、倒してトビレミエズ。
 杖を直飛びであげて
 下段の杖は、上段の杖より先に上げる。トビ!

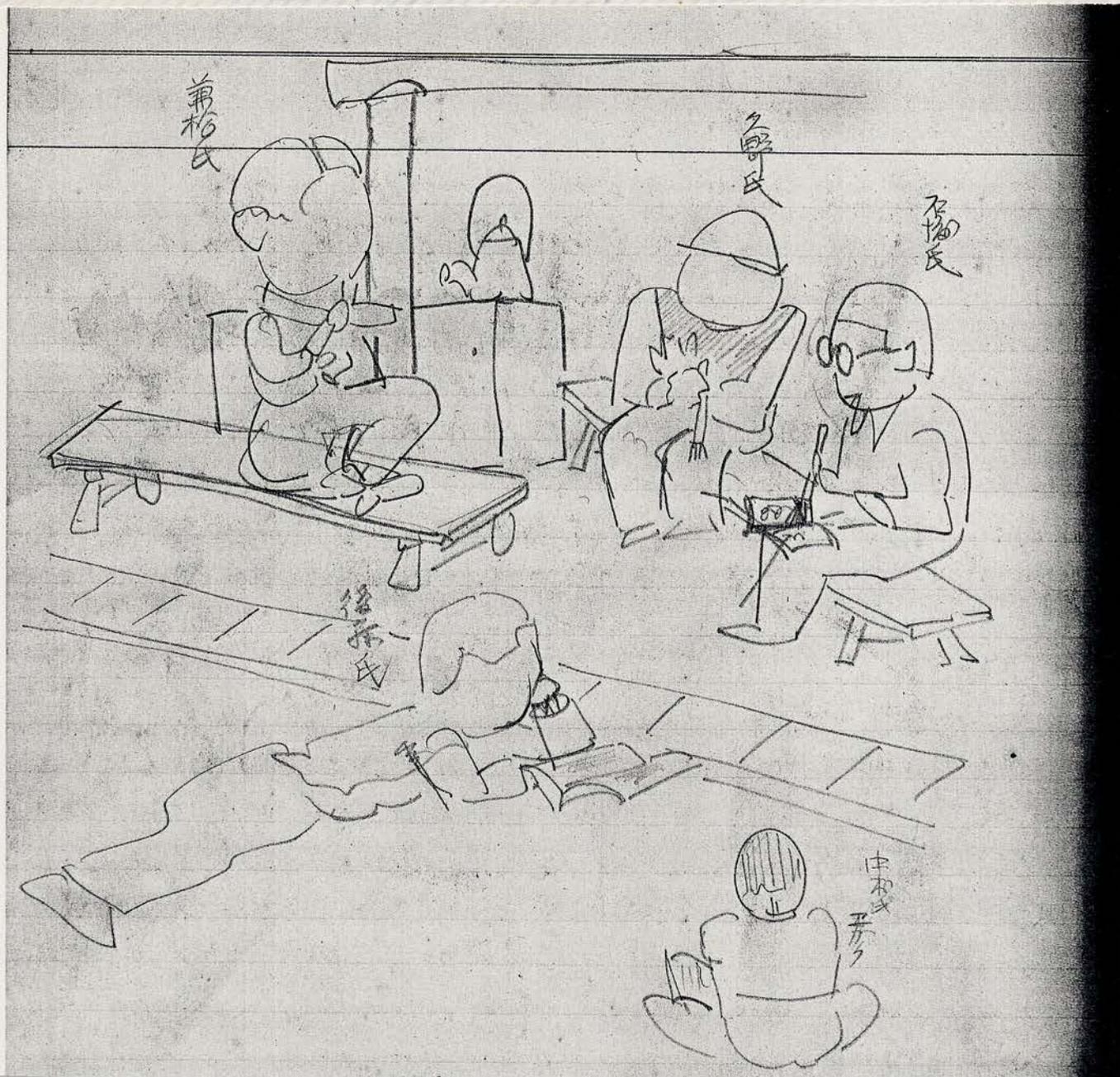
杖を上げる トビガエリ、杖、杖の先には杖を
 向一層の杖を要す。目賀杖は杖を
 倒す。トビ!



雪崩について
 昨日午後2時頃、カズ岩下、雪崩の
 音が一回する。位置が不明なため
 相当なものであろう。(トビ)



雪崩倒る同



夕食後や休日には、このスケッチのようにストーブを囲んだり部屋に寝転がったりして何となくだべり、時には技術を論じたりしたが、特に楽しんだのはランプで食事当番を決めたり、皆で歌を歌ったことであろう。

よく歌われたのは山やスキーの映画の他にドイツ映画の良いのが多数上映されていたのでその主題歌や、ドイツ歌曲、民謡であった。また蓄音機が寄贈され、ヨーデルやワルドトイフェルのワルツ等を含めて数枚のレコードがあった（蓄音機は一年位でぜんまいが壊れ手回しで回したことを記憶している）。

此の様に書くとさぞお酒が入っていたことと想像されるかもしれないが、当時の校則を守って、同席の大学生ともども全くのdryであった。

食事は今日とは違い、インスタント食品等無いので原材料からの料理で、主食は米、麺類で使われたのはマカロニだけ。肉類は冬期を除いて全てカンずめ（牛肉の大和煮を除いてコンビーフ、ハム等輸入品）であった。調味料は味噌、塩が、脂類はバターが主体であった。野菜はおもに土合の山の家が補給。夕食のご馳走はコンビーフやハムの入ったバタ飯、コンビーフキャベジ、鮭（カンずめ）と味噌を混ぜた鮭味噌汁など。朝はわかめ、ジャガ芋等の味噌汁。小屋に停滞の時の昼飯はジャガ芋を茹でて塩とバターで食べ、山の家の人から成蹊の人はよくジャガ芋を食べますねといわれた。携行食はコッペパン等が主食でこれにチーズやサラミソーセージが加わりやや贅沢？であったと記憶している。非常食として砂糖餅（冷えても固くならない）を準備した。

よく歌われた歌

ドイツ歌曲、民謡

Grindelwalder Lied; Alpenleben; Oh Tannenbaum; Heidenroeslein;
Lindenbaum; Jaegerslied; Treue Liebe; Die Lorelei; Mein Kamerad;
Stille Nacht, heilige Nacht; Mussi denn zum Staedtele naus; Lore, Lore

映画主題歌

会議は踊る: Das gibt's nur einmal; Das muss ein Stueck vom Himmel sein;

狂乱のモンテカルロ: Das ist die Liebe der Matrosn; Eine Nacht in Monte Calro

ガソリンボーイ三人組: Ein Freund, ein guter Freund

輪唱歌, 合唱歌

Wie shoen ist es im Freien; Mit dem Pheil, dem Bogen



上、三枝；下、中屋

憩いのひととき

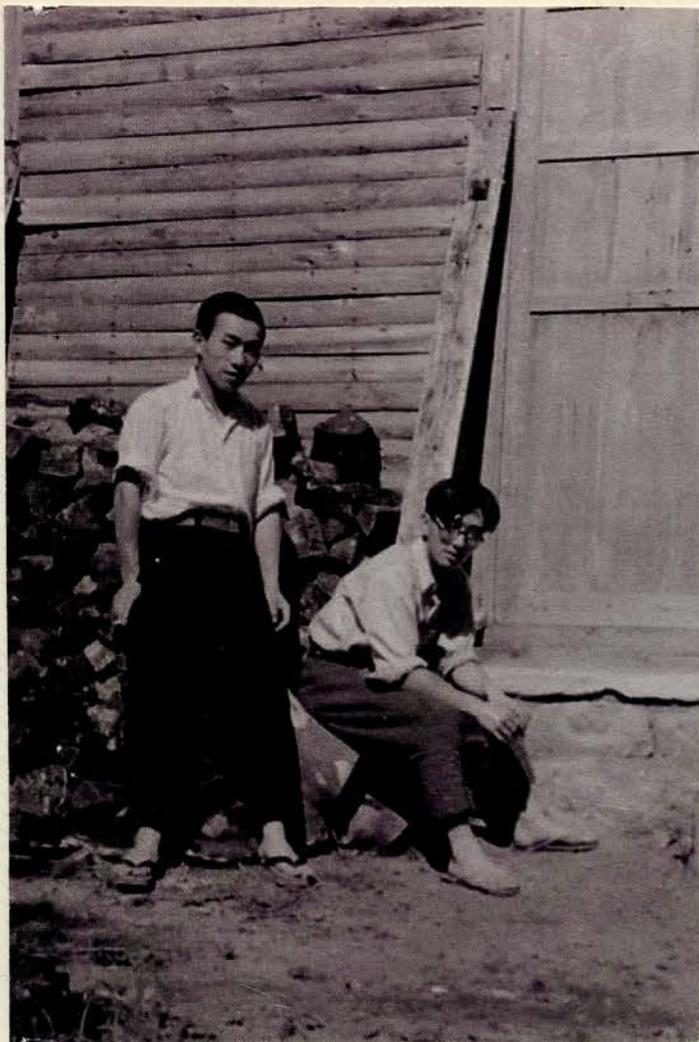
1933/8/6, 雨の晴れ間に、平塚撮影



平塚、中屋、佐川、三枝、長島、中沢



向かって左から： 前列 中沢（中8回；京大 地質）、佐川（中10回、理1回；東大 地質）
平塚（中8回、理1回；東大 鉱山）
後列 長島、中屋、三枝



休日の薪は運び、1936/7/19-23
三枝、今村陸郎(沖縄で戦死)

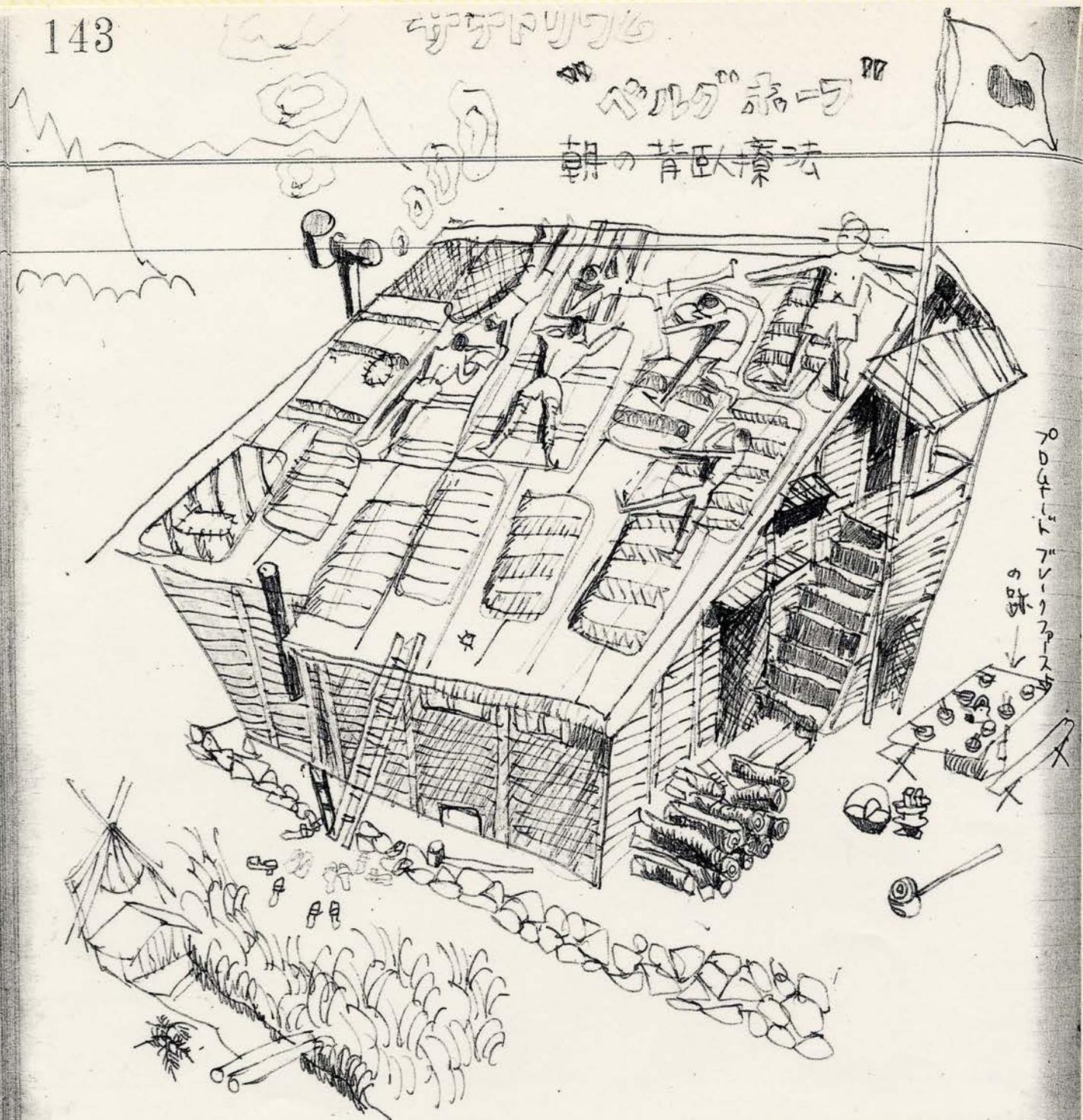


ランプのしたでヒュッテンブーフの記入、1954/11の頃
竹内、上村、戸田、岡村写、戸田提供
(紅芝寮日誌、ヒュッテンブーフが語る半世紀より複写)



ストーブ(2代目?)を囲んで、浜田氏提供
撮影月日不祥

朝の背臥療法



8月11日

快晴

(1942)

未だ朝飯を喰ふ頃には、險悪な雲が蓬方面に満ちあふれてゐたので、怒りの他は皆このお日様の顔も中には見えぬという、天気予報を信じ「マヤが」は「マヤ」といふ小鼻になつたのです。しかし、我々を数日前にやました天候、入し振りにおかげ「みさ下」も「みさ下」であつた。向もなく、快直な晴天となり、ついに我々は「金」が「金」となり、ついにサトウキビの秋の風景を赤陸根の上に現出するがごとき始末となつたのであつた。眞夏の強烈な日光に照されて、東京の暑さをしる「マヤ」が「マヤ」の時が「マヤ」に従ひ、晝飯を喰ふ終る迄スツカリのび切つたのであつた。

中には、履器や案内の片付け修理等、-----

かくして入し振りに落ちつた *Hydrium Lubin* を一日満喫した次第なのであつた。

中野さんや...と俺は居るから。この空を眺めるなら。羨まき、心優しき人だからな。
 この位で、鼻に流してのねじりは。おしんが。今晚は、この窓に。
 晩サンにお招きませう。たふまき青年将校と。お嬢さん五ね。心をもたげて
 PHIROSE.



薪ストーブを囲んで
 最も楽しいひとときであり、今時最も贅沢な遊び

1943/11/3



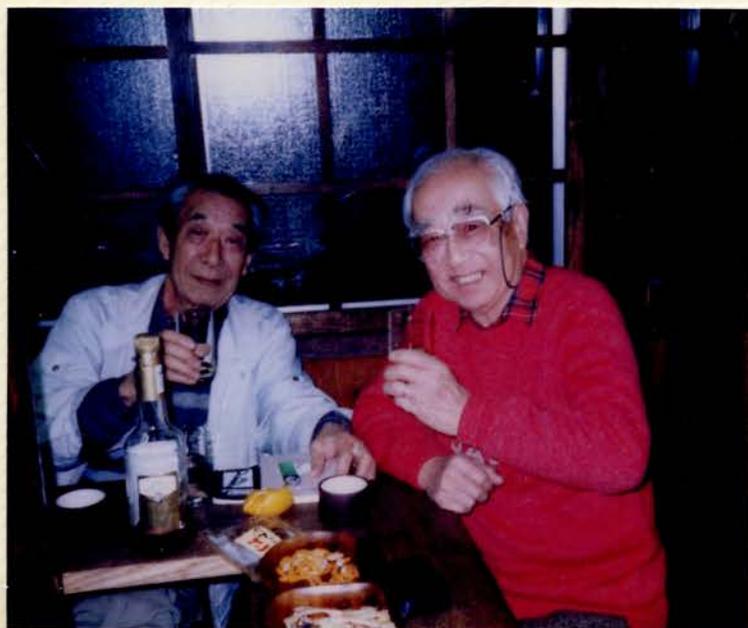
旧ストーブ、84/GW



2階から見た団楽風景、88/10/29
読売新聞88/11/27より



塩沢(東北大、s30、理・化)、三枝(同、s13、理・岩)、岩田(同、s28、工・機)、小林(同、s20、理・化)
95/10/29-31



95/10/30



73/3/3



98/10/10



02/4/28



98/10/10



95/10/28



初風呂、渡辺、三枝、 95/10/28



96/6/22

携帯用風呂の設置
95/10/28
この風呂は95/1/17の兵庫県南部の地震のおり活躍したとゆう。燃料はプロパンガス。
炊事場の蛇口から水をひくのでホースが細く満水にするのに1時間かかる。



雪下ろしの後で、 00/2/12

炊 事 場



① 水槽

建設当時の炊事場はWCの幅だけ狭かった。水槽は命名式の時の演台で、コンクリートの床のうえにじかに置き、之れに集水場からのパイプをその径を変えずにそのまま引き込んであった。太いパイプから勢い良く水が入り、皿洗い器のように茶碗などは綺麗に洗ってくれた。今の様に水槽をかえ、調理台などを作り付けたのは、記録が残っていないが1940の改築の時と思われる。

建設当時の取水のやり方はごく簡単で、寮から4、50m上流に石で囲ってダム擬いのものを作ったにすぎなかった。それで夕立の時などは濁った水が来たり落葉が流れて来たりした。1936に国鉄の小屋が出来て、取水場所を互いに上え上えと移動するなどのトラブルが起き、協議の結果現在のような取水場出来たと聞いている（寮日誌の紛失もあり時期など詳細は不明）。

1940の改築の時は取水場は現在よりも下流で水圧も強くなく、水槽えののパイプの径を落としてあっても水が飛び散ることは無かったであろうが、現在の位置では水圧が強く水が飛び散るために、蛇口をつけたが秋に使用後蛇口を閉めそのまま冬に入り、凍結し、之れを避けるために蛇口を除去、水の飛散を防ぐために小さな鍋を被せたりしていた。

この2、3年前から水量が減った為か鍋をを使用しなくてもよくなっていた。之れは長年の使用で導水パイプを小屋に入れるところで曲げ、かつ径を落としてあった為に砂が詰って来た為かと思われる。この部分の設計図が無いので如何にすればよいかは分からないが、水槽を一度壊さなければならぬかも知れない。問題の場所にはガスボンベ置場があり作業はかなり大掛りになるかもしれない。むしろ新に南側から引きなおし、砂詰まりを防ぐためにパイプの径を落とさず、取り入れの屈曲部にはドレインをつけるのが良策か。この小屋の一番の弱点は水槽えの水の引きかたである。

② 排水

水槽から溢れた水や洗い物の後の水は、床に掘った溝によって外に導かれ、パイプで川に放出される。この溝とパイプの接点で野菜屑等が詰まり、排水が溢れだしてWCの方に流れていることが多い。

この水が、雨天には屋根からの水と武能岳方向から水も加わって、寮の土台を侵食する。寮のこの部分は積雪期には最も荷がかかるころであるので、寮からの出口に”ます”を置くなど早急の改良が必要である。この時上記の屋根ならびに武能岳方向から来る雨水の処理も行ないたい。



③ 残った食料、調味料、嗜好品及び廃棄物

戦前と違って食料の包装法が発達し、寮に持ち込む種類が増え、現在は調理台の上は残された調味料、米などでかなりの面積を占められ、料理する場所が狭くなっている。あるつもりで入寮すると量が足りなかつたり、賞味期限が不明であつたりする事もままある。今後は調味料を含めて食料など残ったものは全て持ち帰る様にしては？（東北大の清溪小屋では建設当時から完全にこれを実施）。此の方が小屋の中がスッキリする。

廃棄物で野菜屑や包装紙等はストーブで処理出来るが、その他の物は持ち帰りとする。直接帰京せず他に回るなどの時は、ペットボトルやスチロールのパック等は屋外で薪を利用しての焼却もやむをえない。この時は薪を井桁に数段組で煙突状にし、この中で燃せばよい。中に入れた廃棄物は自己燃焼に近い状態で燃えるので大部分の薪はストーブで再使用出来、且つこの薪は新しい薪よりも焚き付けしやすい。この方法で刈った草も燃す事が出来、石油などかけることはない。



82/5/3 新入生歓迎と雪上訓練を終えて
高橋、武田、林、武田
布施、三枝

小屋の前での記念写真



85/10/13



89/5/3



93/10/10



99/5/3



99/9/15



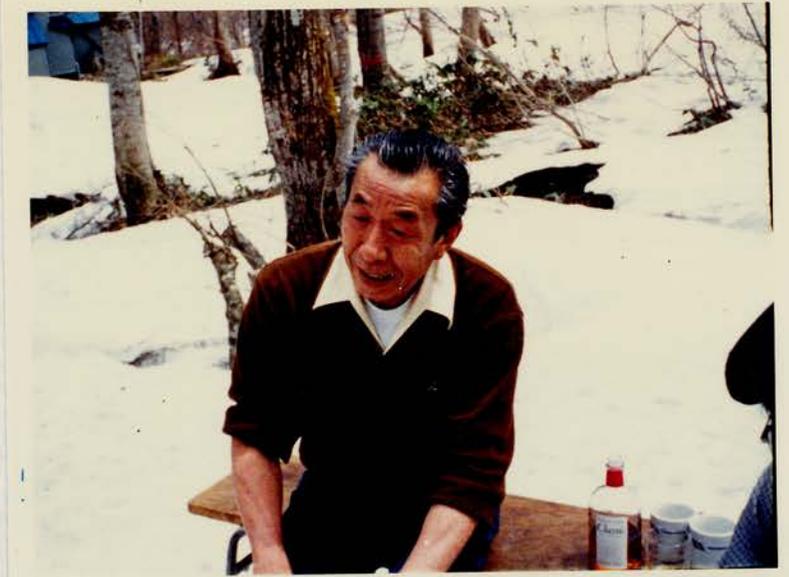
00/5/4



02/4/29



第1回TBS撮影のあり、86/4/30



FUJICOLOR HR 86

小屋の前で



雪の中の退寮、88/10/30



97/ 5/ 2

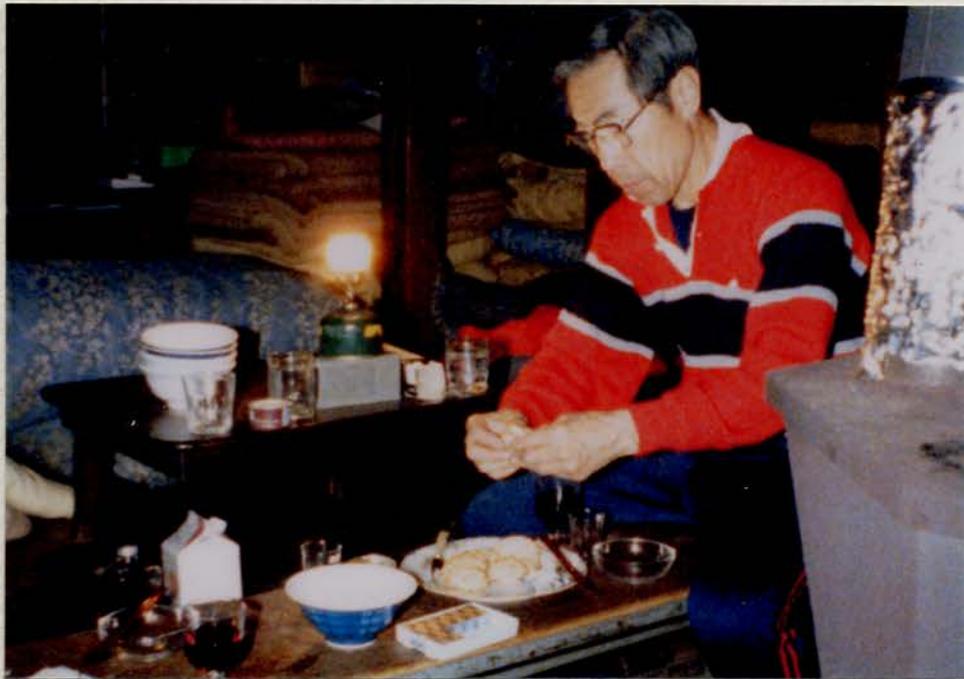
食 事 風 景



80/5/3-5 朝食



81/10/10 この時は電気は電球使用



83/12/23-25 松平さんと二人でクリスマス イヴを
楽しんだ



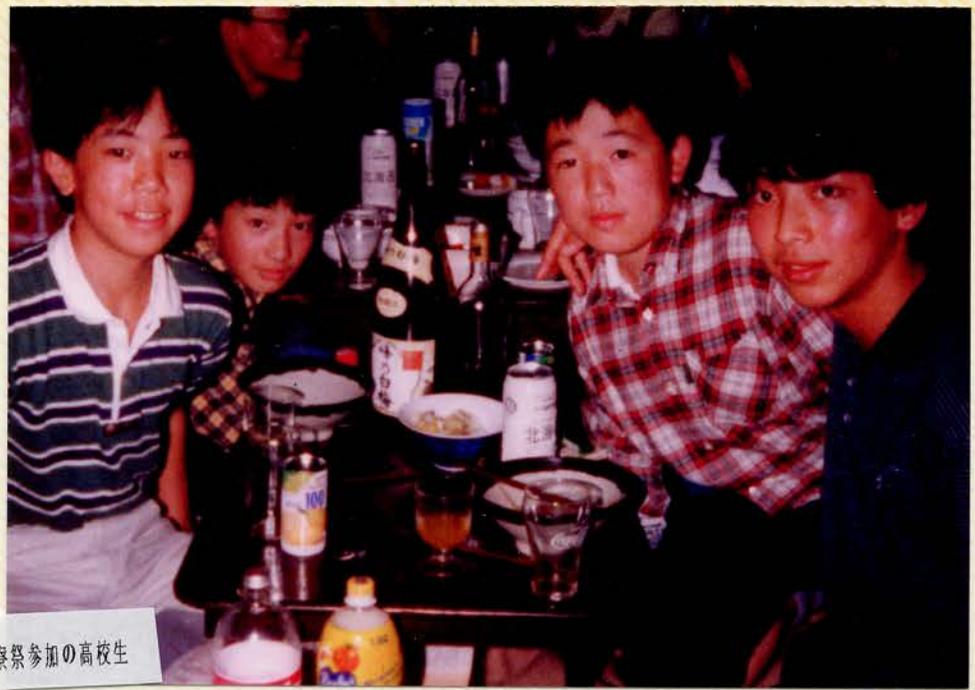
90/10/13 渡辺会長の挨拶



91/12/24 東北大山の会の友人と。三枝、佐藤、塩沢



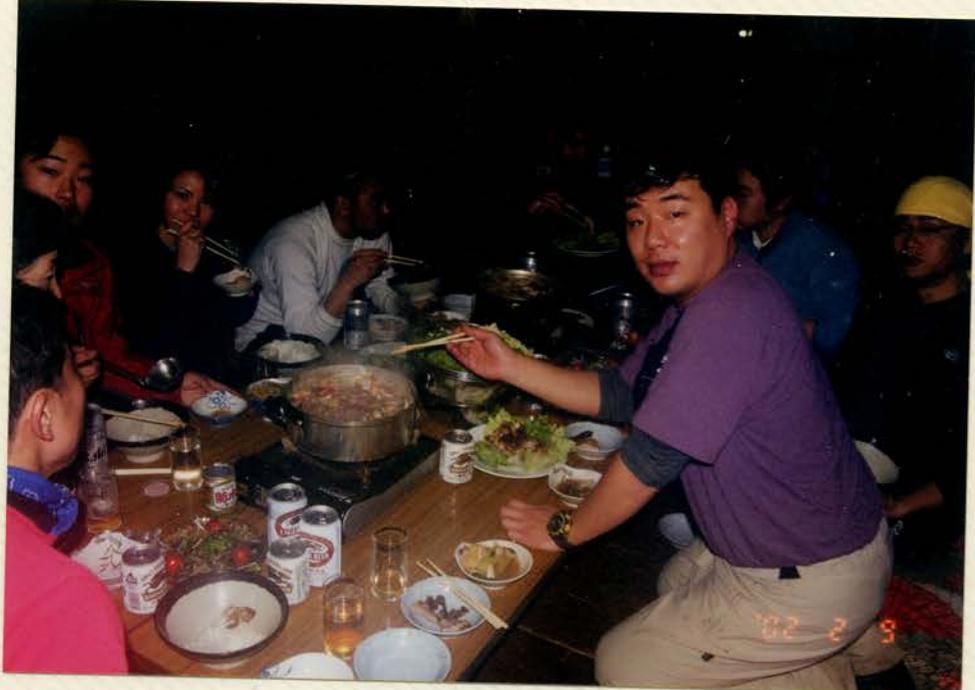
90/10/13 寮祭参加の高校生



82/2/16-18 雪下ろしの夜の会食



91/10/25 現役諸君



02/2/9-11



99/9/15 遠来の友を迎えて、高校卒の会員、鈴木、山中と4人で



山の友、戸田君を忍んで、1996寮祭
10/26, 27







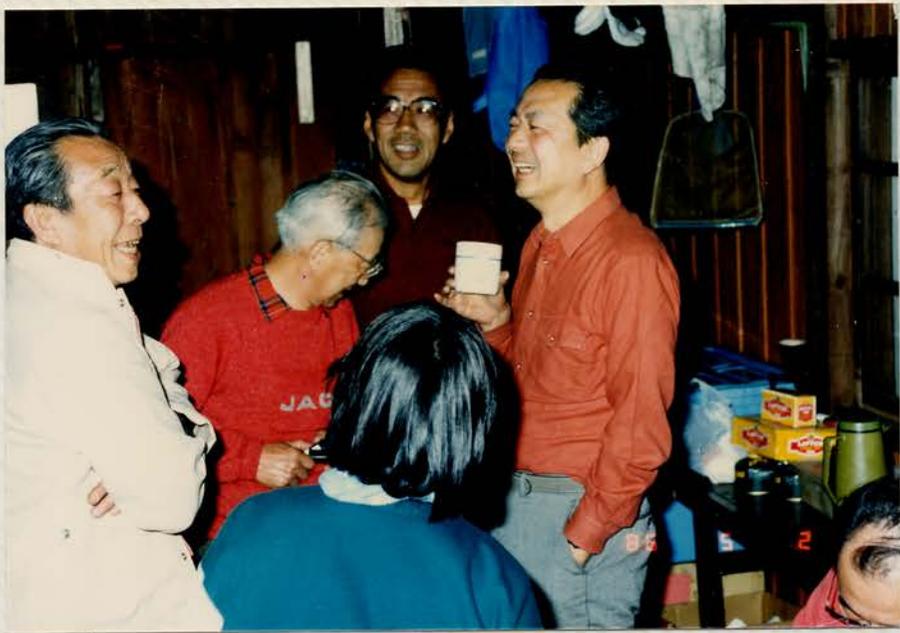
夕食前後の楽しみ

81/10/11



82/4/29-5/3

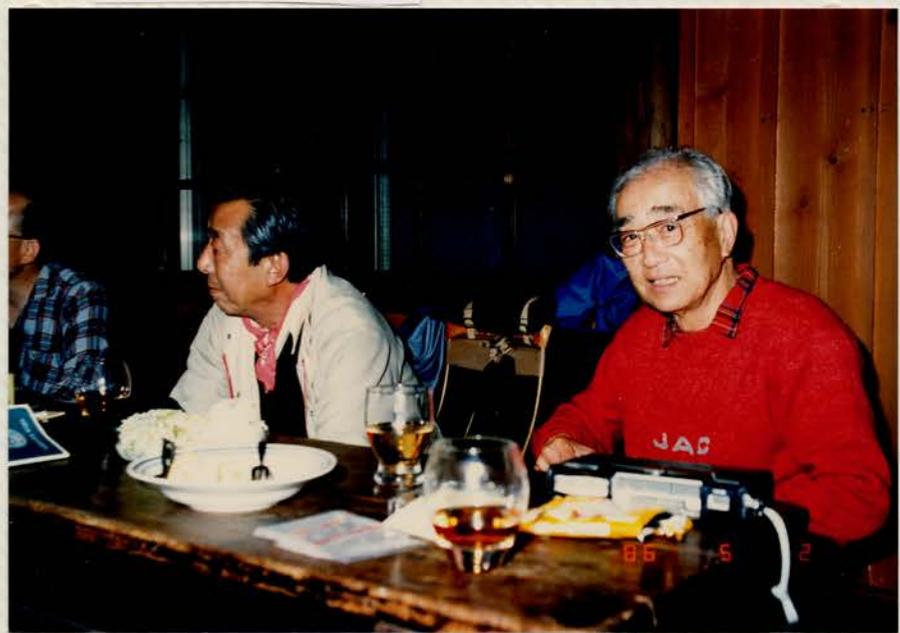




86/GW TBS撮影時



88/10/29



86/GW TBS撮影時



90/10/13



90/10/13



94/GW



FUJICOLOR HR 84

84/10/13



96/4/27-29



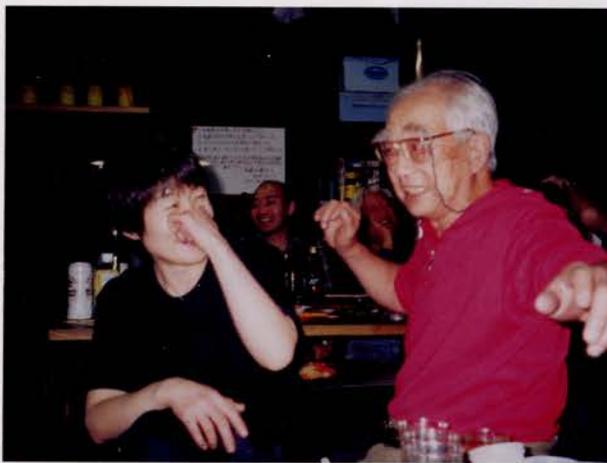
96/6/21-23



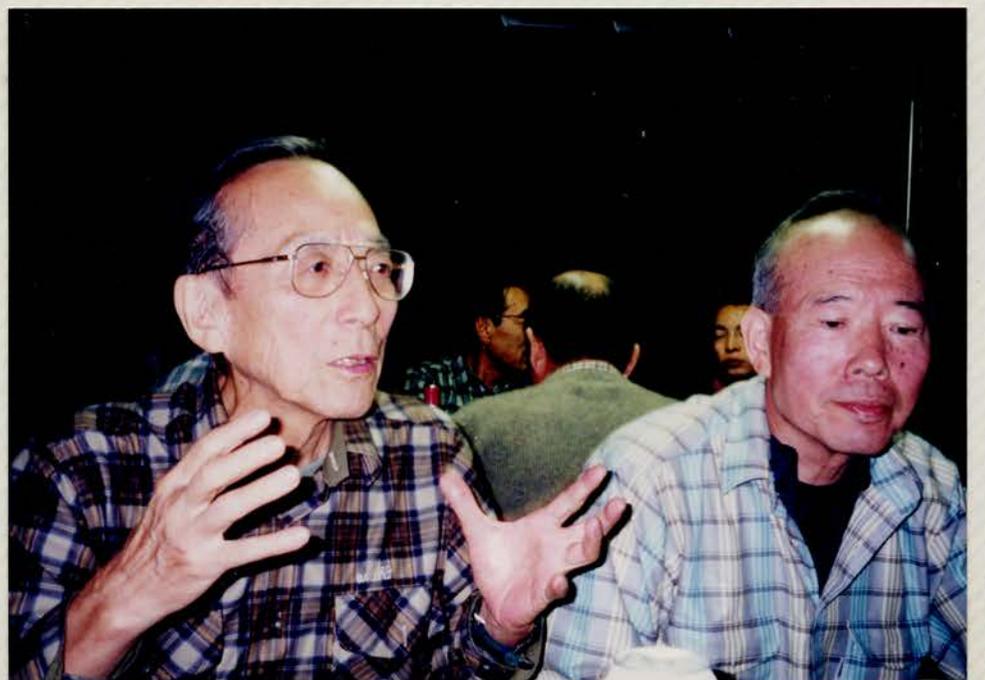
94/4/29-5/3



96/6/21-23



20世紀最後の虹芝寮、平岡夫人と、99/10/23



02/10/26



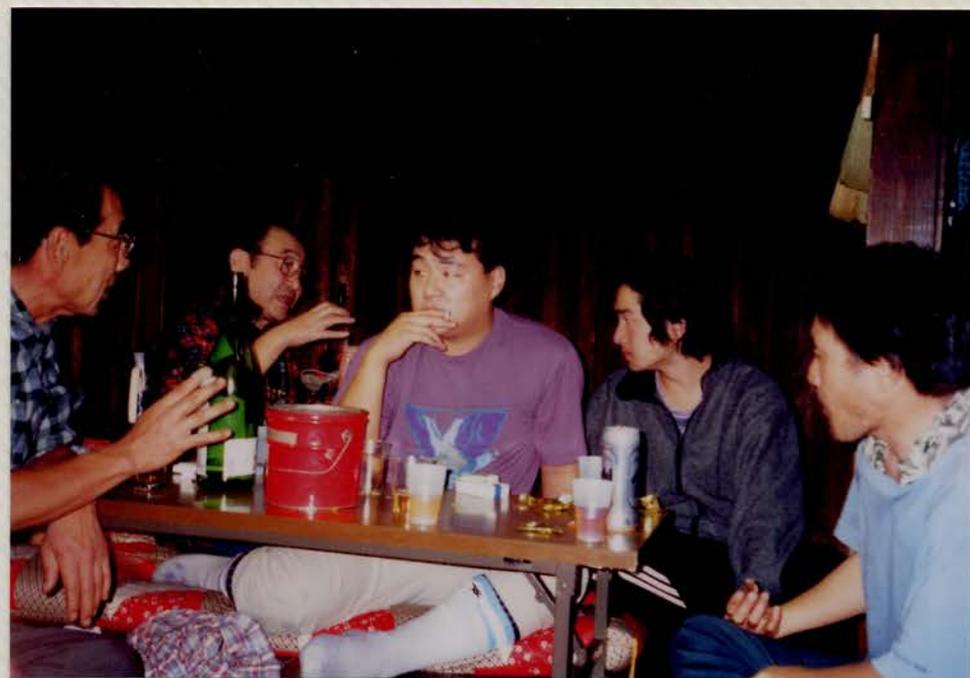
99/5/1-3



84/10/13



84/10/13



00/GW



88/10/29



82/4/27-5/3



02/4/29



02/4/29 やまね